



■北九州学術研究都市

- 【公共交通機関の場合】 ◎JR折尾駅バス停 → 市営バス・西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約20分
◎北九州空港バス停 → 西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約80分
- 【車をご利用の場合】 ◎北九州都市高速道路 黒崎出入口（黒崎・折尾出口下車）折尾方面へ → 学研都市ひびきの ※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分
◎小倉都心 → 北九州都市高速道路 東田出入口 → 黒崎バイパス 皇后崎ランプ → 学研都市ひびきの ※所用時間小倉都心から約30分

【北九州学術研究都市】



■中小企業支援センター

- 【公共交通機関の場合】 ◎JR九州工大前駅下車 北側へ徒歩3分
- 【車をご利用の場合】 ◎戸畑方面より
「新池三丁目交差点」より「若戸トンネル連絡道路」へ → 「若戸トンネル入口」を右折
◎小倉方面より 国道199号線「中原東交差点」を北進 最初の信号を左折し直進

【中小企業支援センター】



北九州学術都市に関する全般的なお問い合わせ		E-mail : info@ksrp.or.jp	
総務部	北九州学術研究都市内 産学連携センター1階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3111	FAX 093-695-3010
学術情報センターに関するお問い合わせ			
総務部（学術情報センター） 図書室	北九州学術研究都市内 学術情報センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-3	TEL 093-695-3150 TEL 093-695-3151	FAX 093-695-3152 FAX 093-695-3152
大学の研究内容の活用、産学連携、その他研究開発プロジェクトに関するお問い合わせ		E-mail : iac@ksrp.or.jp	
産学連携センター			
産学連携部 GX推進部	北九州学術研究都市内 産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006	FAX 093-695-3018
自動車分野における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail : car@ksrp.or.jp	
自動車産業支援センター			
	北九州学術研究都市内 産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3685	FAX 093-695-3686
半導体分野における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail : ksnet@ksrp.or.jp	
半導体産業支援センター			
	北九州学術研究都市内 産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3007	FAX 093-695-3686
ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進に関するお問い合わせ		E-mail : robodx@ksrp.or.jp	
ロボット・DX推進センター			
ロボット産業推進部 DX推進部	北九州学術研究都市内 技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北8-1	TEL 093-695-3085 TEL 093-695-3077	FAX 093-695-3525 FAX 093-695-3667
中小企業の経営、創業に関するお問い合わせ		E-mail : k_info@ksrp.or.jp	
中小企業支援センター			
	北九州テクノセンター1階 〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2-1	TEL 093-873-1430	FAX 093-873-1450

2023 事業報告書 ANNUAL REPORT

公益財団法人 北九州産業学術推進機構



KTQ-GX
Challenge 2050



はじめに

公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市(学研都市)を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界との連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。

現在、学研都市には、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院、そのほかに13の研究機関や40を超える企業等が集積し、研究開発や人材育成等が進められています。

こうした中、FAISは学研都市の指定管理者として共同利用施設等の適切な管理運営を行うとともに、産学連携による研究開発の推進や地域企業の経営支援に取り組んでいます。

2023年度は、2050年のカーボンニュートラルに向けた世界的なグリーントランスフォーメーション(GX)の動きを踏まえ、これまで「環境技術」と「情報技術」を中心に教育研究活動を積み重ねてきた学研都市の知見を活かして産業集積や地域企業の成長等につなげていくため、北九州市と共同で「北九州GX推進コンソーシアム」を設立し、最先端の研究開発や社会実装を進めていく取組をスタートしました。

また、次世代自動車、半導体、宇宙など、今後成長が見込まれる未来産業分野における研究開発や人材育成の支援を強化し、将来の地域経済を支える産業技術創出の基盤づくりに取り組むとともに、「北九州市ロボット・DX推進センター」の運営を通じて、ロボット・IoT・デジタル化といった先端技術の導入支援やワンストップでの相談対応により、幅広い分野で地域企業の生産性向上を支援しました。

さらに、学生や研究者、企業等、学研都市に関わる人たちが互いに交流し共創していく場としてコミュニケーションスペース「HIBIKINO ODORIVA」をオープンし、各種交流イベント等を実施するほか、大学や地元住民との協働による「ひびきの祭」や、市内の小学生約400名を招いた「デジタルクリエイター教室」の開催など、地域に開かれた学研都市として、地域との交流、連携にも取り組んでいます。

FAISは、学研都市に集積する「知」を活かしたイノベーションの創出と北九州地域の産業の高度化に向けて、これからもチャレンジを続けていきます。

目 次

(公財)北九州産業学術推進機構について	1
---------------------	---

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要	3
学研都市の進出大学、研究機関、 企業および産学連携施設	5
アジアの学術研究拠点の形成	8

産学連携の推進

産学連携の取り組み(全体フロー)	10
情報収集・発信、産学交流の促進	10
研究開発支援	12
研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》	15
学研都市を中心としたGXの推進《北九州GX推進コンソーシアムの運営》	16
技術拠点化の推進	17
中小企業へのロボット導入支援、DX推進	19

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援	27
------------	----

財団運営

評議員および役員名簿	29
決算資料	29



公益財団法人 北九州産業学術推進機構



Kitakyushu Foundation
for the **A**dvancement of **I**ndustry,
Science and **T**echnology

- 基本理念
公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）は北九州地域における産学官連携による研究開発や学術研究の推進等を行うことで、産業技術の高度化や活力ある地域企業群の創出・育成に寄与することを目指しています。
- 理事長／松永 守央
- 基本財産／2億8,550万円（北九州市及び民間企業からの出捐金）
- 役員等構成／[学界] 学研都市参画大学副学長 市内理工系大学長等
[産業界] 商工会議所等経済団体
[行政] 北九州市、福岡県
- 職員数／74名（令和6年5月1日現在）、市派遣：14名
民間出身等：34名（うち出向12名）、事務嘱託等：26名
- 令和5年度事業費（支出決算額）／23.6億円

事務局

総務部

北九州学術研究都市内にある共同利用施設の管理・運営を行うとともに、進出大学間の連携・交流を促進し、学研都市の一体的な運営を行っています。
また、九州ヒューマンメディア創造センター（八幡東区東田）を設置・運営しています。データセンター群やその運用拠点施設やコンタクトセンターなど次世代産業・業務施設の集積を促進しています。

産学連携センター

産学連携部

北九州学術研究都市を中心とする、産学連携ネットワークの形成や新規プロジェクトの創出・運営、新規事業化の展開の促進によって、地域企業の活性化や新産業創出を進めています。

- ◎産学連携のコーディネート ◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信 ◎産学交流の場の提供
- ◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援 ◎産学共同研究開発への支援
- ◎北九州TLOによる技術移転支援 ◎コミュニケーションスペースの運営

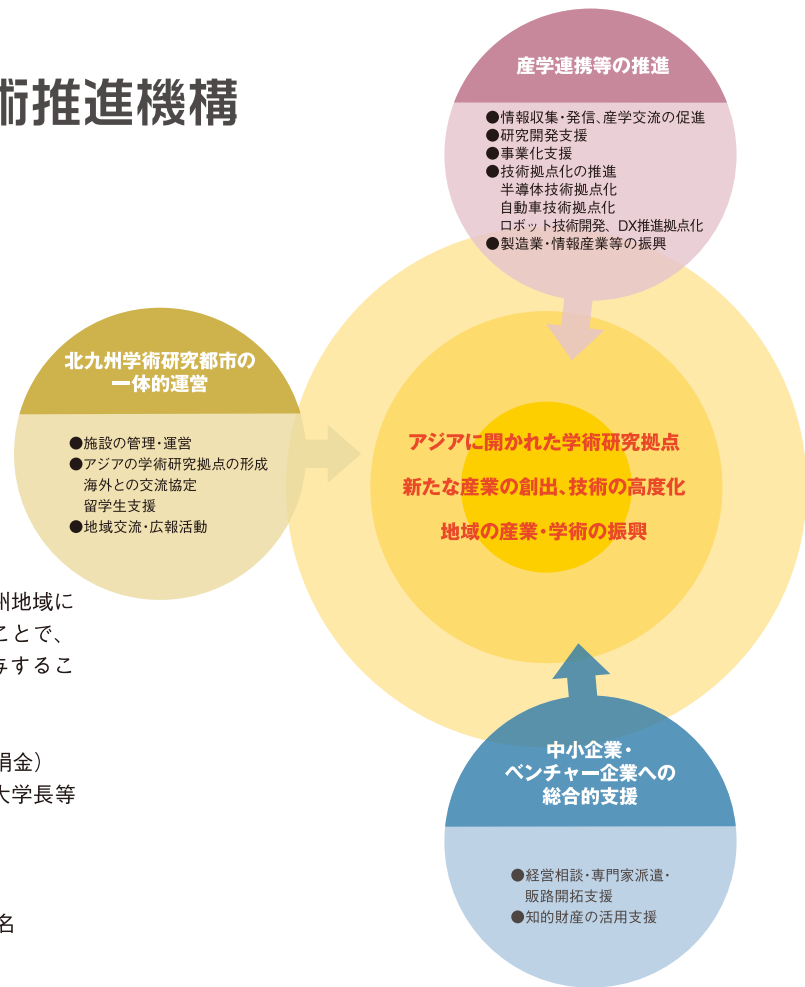
中小企業等の研究開発の取り組みに対し「Go-Tech事業」など国の研究開発補助金を活用するため、事業管理機関として補助金申請、事業計画の推進、事業管理等を担い、地域企業の「ものづくり競争力強化」や「新たな事業の創出」を支援します。

- ◎研究開発支援 ◎事業化支援 ◎人材育成 ◎地場企業支援

GX推進部

カーボンニュートラルを成長の機会と捉え、官民GX投資を呼び込み、グリーントランスフォーメーション（GX）をより一層推進していくため、北九州市と連携して、北九州GX推進コンソーシアムを設立し、「稼げるまち」北九州市の実現を目指した取り組みを行っています。

- ◎最先端の研究開発・社会実装 ◎GX関連産業の集積 ◎GX人材の育成
- ◎地域企業のカーボンニュートラルやグリーン成長に向けた支援



自動車産業支援センター

自動車産業の拠点化を推進するため、産学官連携による人材育成・地場企業支援・研究開発支援を行っています。学研都市3大学が運営する連携大学院の教育プログラムの支援、アドバイザーを地場企業に派遣し、教育・生産性向上等の支援、また、企業技術者と大学研究者のコーディネートによる研究会活動をベースに共同研究開発を促進します。

- ◎人材育成 ◎地場企業支援 ◎研究開発支援



▲クルマの未来館ひびきの（新型HVの主要構造部品の展示等）



自動車工学「エンジン分解・組立実演」の様子（協力：日産自動車九州株）

半導体産業支援センター

北九州市域の半導体企業の活性化のため、半導体を一から学べる基礎講座の提供、半導体産業関連企業のマッチング機会の創出、大学との産学連携や企業間連携の支援などの取組みを実施しています。

- ◎人材育成・人材確保
- ◎販路の開拓や企業間交流の促進
- ◎技術・研究開発の促進



▲開発・試作支援設備：半導体試作設備の例（フォトリソグラフィ工程）



▲人材育成：半導体製造工程の実習教育の様子（クリーンルーム）

ロボット・DX推進センター

ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援するための機関です。

当センターでは、導入支援、操作体験、人材育成等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援します。

- ◎ワンストップ相談窓口の運営 ◎ロボット・IoT機器等の展示・体験



ロボット産業推進部

地域の中小企業へロボット普及を推進するための導入支援事業や人材育成活動を実施しているほか、市内のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営や研究開発の支援を行っています。



▲展示ロボット例

- ◎ロボット技術の研究開発・事業化支援
- ◎中小企業へのロボット導入支援 ◎人材育成

DX推進部

DX推進による地域産業の高度化や、新ビジネス創出を図るため、北九州市DX推進プラットフォームやSlerネットワークの運営を行っています。

また、専門家派遣等による地域企業のDX推進支援や、経営層や現場リーダー向けの人材育成活動も実施しています。

- ◎専門家派遣等による企業のDX推進支援
- ◎新ビジネス創出・事業化支援
- ◎IoT導入による生産性向上支援
- ◎人材育成

中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1（北九州テクノセンター1階）

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支援しています。創業や経営の改善・革新を目指す個人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓口、専門家派遣、知的財産の活用相談等を受け付けています。

- ◎中小企業の経営課題解決支援 ◎中小企業向けの情報発信
- ◎創業予定者への支援 ◎北九州知的財産支援センターの運営



学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、平成13年4月にオープンしました。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開しています。

大学等の『知』を活用した 地域の産業・学術の振興

アジアに開かれた学術研究拠点
新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と
豊かな生活を
創り出す
**アジアの
先端産業都市
の実現**

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、 研究開発型企業等を 同一のキャンパスに集積

- ◎国・公・私立大学(1学部4大学院)
北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科
九州工業大学大学院生命体工学研究科
早稲田大学大学院情報生産システム研究科
福岡大学大学院工学研究科
- ◎研究機関(13機関)
- ◎研究開発型企業等(46社)

(令和6年5月1日現在)

研究者・教員・学生相互の交流と連携

- ◎進出大学による共同研究、教員等の交流
- ◎単位互換の実施
- ◎進出大学による連携大学院の運営

進出大学の教育・ 研究理念の共通化

- ◎先端的な科学技術分野での
教育・研究の展開
- ◎産学連携の促進
- ◎起業家精神の育成
- ◎アジアの学術研究拠点の形成

キャンパスの一体的な運営、 施設の共同利用

- ◎学研都市進出大学の代表者で
構成する「キャンパス運営委員会」による
共同事業の企画・立案
- ◎図書室、情報処理施設、利便施設の共同利用

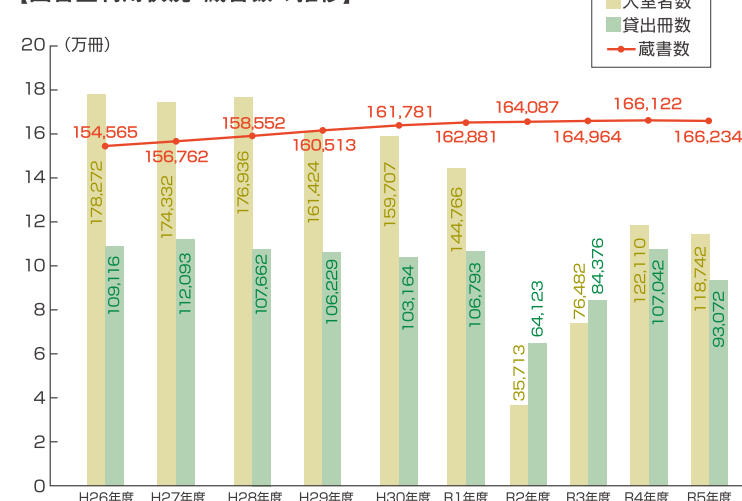
市民も利用できる共同利用施設の運営

学術情報施設

市立図書館とオンラインで結ばれ、他の市立図書館と同様に利用できる一般図書室と、北九州学術研究都市に進出している大学の専門図書を集中配架する専門図書室を運営しています。

また、パソコンを配備した講義室や、遠隔地とリアルタイムでテレビ(Web)会議ができる遠隔講義室等を備えています。

【図書室利用状況・蔵書数の推移】



学術情報センター



コンベンション・体育施設

会議場／ 大型映像装置や同時通訳設備を備えた460席の会議用ホールで、講演会やセミナー、学会や国際会議等に利用できます。懇親会や展示会等に活用できるイベントホールを併設しています。

会議室／ 数人から200人規模まで、ニーズに応じた様々な形態の会議や研修、地域活動等に利用できます。

体育施設／ 大学の授業やサークル活動の時間以外は、地域や有志クラブ等の活動に利用できます。
(体育館・運動場・テニスコート)



会議場(外観)



会議場(メインホール)



会議場(イベントホール)



会議室



研修室



体育館



運動場



テニスコート

コミュニケーションスペースの設置・運営

HIBIKINO ODORIVA (ヒビキノ オドリバ)

HIBIKINO ODORIVA(ヒビキノ オドリバ)は、北九州学術研究都市に集う研究者・学生・留学生・企業等が互いに交流し共創していくコミュニケーションスペースとして、令和5年10月13日にオープンしました。

「(階段の)踊り場」のような、人々が気軽に交流する「交差点」であり、下記の3つのコンセプトを軸に利用者の交流を促進しています。

<コンセプト>

- ①グローバルなコミュニティの形成
- ②分野を超えた学びと研究の促進
- ③チャレンジ精神やリーダーシップの醸成

令和5年度会員登録者数／183名

令和5年度利用者数／2,183名



学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設

北九州学術研究都市進出大学・産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部

■学生定員：1,020名
環境化学工学科
機械システム工学科
情報システム工学科
建築デザイン学科
環境生命工学科

大学院国際環境工学研究科

■学生定員：346名
環境システム専攻
環境工学専攻
情報工学専攻



2 九州工業大学大学院



生命体工学研究科

■学生定員：352名
生体機能応用工学専攻
人間知能システム工学専攻
生命体工学専攻

3 早稲田大学大学院



情報生産システム研究科

■学生定員：460名
情報アーキテクチャ分野
生産システム分野
集積システム分野

4 福岡大学大学院

工学研究科

■学生定員：14名
資源循環・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻

※産学連携センター内



学生数および教員数

(令和6年5月1日現在)							
大学	学部	修士	博士	研究生	特別研究学生	学生数計	教員数
北九州市立大学	国際環境工学部	1,123 (37)	—	1 (1)	0 (0)	1,124 (38)	84
北九州市立大学	国際環境工学研究科	—	308 (36)	163 (142)	0 (0)	471 (178)	—
九州工業大学大学院	生命体工学研究科	—	240 (31)	104 (45)	4 (2)	350 (82)	45
早稲田大学大学院	情報生産システム研究科	—	428 (404)	123 (120)	1 (1)	555 (528)	39
福岡大学大学院	工学研究科	—	3 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2
合計		1,123 (37)	979 (471)	390 (307)	6 (6)	2,503 (826)	170

()内は留学生数

A 産学連携センター

産学連携センター
1号館



産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター」などの研究機関、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居しています。また、コミュニケーションスペース「HIBIKINO ODORIVA(ヒビキノドリバ)」や研修室、会議室なども提供しています。

- 貸研究室(31室、オフィス系)
- 研修室、会議室(中・小)、特別会議室、特別応接室

B 共同研究開発センター

産学連携センター
2号館



半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設です。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。IC試作体験実習の受け入れも可能です。

- 貸研究室(7室、オフィス系)
- 共同利用のIC・MEMS向け微細加工装置群を設置(イオン注入装置、電子ビーム描画装置、両面露光装置、高速熱処理装置(RTA)、ダイスングソー、ボンディング装置等)

C 情報技術高度化センター

産学連携センター
3号館



ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設です。半導体技術者育成のための研修室や半導体評価・解析を行う機器の開放、研究室の提供などを行います。

- 貸研究室(34室、オフィス系・小規模研究室)
- 半導体評価・解析を行う機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター
4号館



大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

オフィス系研究室のほか、機械系と化学系の研究室や小規模ブース単位で利用できる共同研究室を提供しています。

- 貸研究室(36室、オフィス系・機械系・化学系)
- 会議室(中・小)
- 共同研究室(10ブース)
- シェアオフィス

E 技術開発交流センター

産学連携センター
5号館



ロボット、カーエレクトロニクス分野の技術開発支援やDXを推進する施設

ロボット導入やカーエレクトロニクスの技術開発支援、DX(IoT)の導入や業務のデジタル化を推進する施設です。また、学術研究を目的に訪れるの方のための宿泊室も提供しています。

- 貸研究室(48室、オフィス系・機械系・化学系)
- 宿泊室(9室、シングル8室・ツイン1室)
- 会議室(中・小)
- 交流室(1室)

F 学術情報センター

図書室
情報処理施設



情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供(図書室)の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、遠隔会議や情報コンテンツ制作をサポートする環境を提供しています。

貸研究室賃料

◎2,000円/㎡・月(共益費別 500円/㎡・月)
(例:研究室50㎡の場合およそ150万円/年 光熱水費等別)

※FAISは、北九州市から指定管理者としての指定を受け、産学連携施設の効果的・効率的な管理・運営を行っています。

産学連携施設が充実する北九州学術研究都市には、大学だけではなく研究機関および研究開発型企業の進出も進んでいます。また、北九州学術研究都市の大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業も13社入居しています。

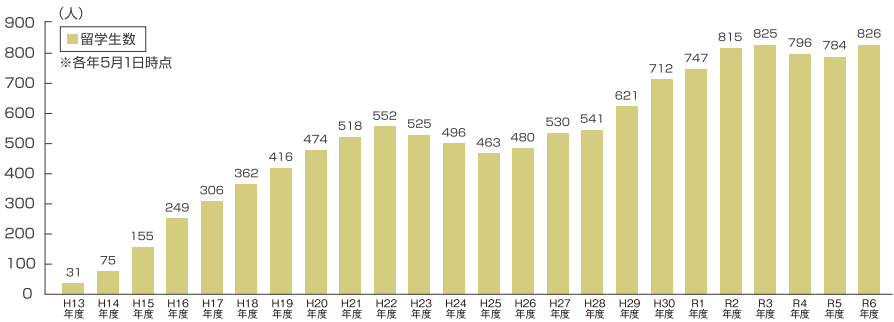
進出研究機関

令和6年5月1日現在		
研究機関等の名称	入居場所	研究内容
北九州市立大学環境技術研究所	北九州市立大学	地球環境の変化と地域社会の要請に応えるため、環境エネルギー、バイオマテリアル、情報、ロボット技術等の分野の研究と技術開発を戦略的に推進
北九州市立大学環境技術研究所・Green LPG 研究室	事業化支援センター	LPガスの新技術に関する研究
北九州市立大学 福田研究室	情報技術高度化センター	マンション木軸材用「接着形成造作用芯材」の事業化に関する研究
九州工業大学 次世代パワーエレクトロニクス研究センター	九州工業大学および共同研究開発センター	省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等、低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究を行う
九州工業大学 未来社会ロボット実装センター	九州工業大学および情報技術高度化センター	○極限環境に対応可能な特殊環境ロボット群の開発・実用化 ○医療・介護ロボットの開発・実用化 ○工場内自動化対応技術の開発・実用化 ○信頼できるロボットの実用化を支える品質保証を可能とするオープンソフトウェアの開発
早稲田大学 情報生産システム研究センター	早稲田大学情報生産システム研究センター	自動車エレクトロニクスおよびLSI分野における国際的水準の高度な研究、人材育成
福岡大学 産学官連携センター 北九州産学連携推進室	産学連携センター	環境産業に関する企業のニーズ、自治体の政策およびシーズをマッチングさせ、産学官連携による環境産業振興を展開
一般財団法人 ファジシステム研究所	共同研究開発センター	ファジ理論を応用した情報処理システムに関する試験研究
一般社団法人HIBD研究所	産学連携センターおよび事業化支援センター	再生可能資源、炭酸ガスを原料とする液体燃料製造の研究開発
公益社団法人無人機研究開発機構	産学連携センター	無人機全般について調査、研究および技術向上についての知識の交換、情報の提供等を行う場となることにより、無人機に関する研究の進歩普及
公益財団法人 福岡県リサイクル総合研究事業化センター	産学連携センター	資源循環型社会の構築に向けた、リサイクル技術の開発や社会システムの確立に取り組み産学官民による研究開発および事業化を支援
NPO法人武道の学校	事業化支援センター	小型の脳活動センサーを使用し、運動時の前頭前野の血流量を計測
特定非営利活動法人あそびとまなび研究所	事業化支援センター	竹コンポストを利用した地域における生ごみ減容の最適普及促進の実証研究

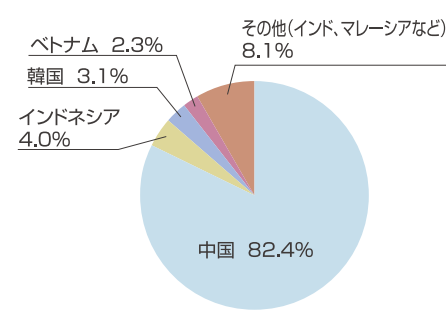
アジアの学術研究拠点の形成

北九州学術研究都市の留学生

【留学生数の推移】



【出身国内訳(25か国)】



留学生の支援と優秀なグローバル人材の育成

FAIS留学生就職支援プログラム事業の運営

北九州学術研究都市内の2大学(北九州市立大学、早稲田大学)の修士留学生を対象に、日本企業への就職を支援する「FAIS留学生就職支援プログラム」事業を実施しました。

- 受講生 28名(北九州市立大学3名、早稲田大学25名)
- プログラム
 - ・就職支援講座(就活セミナー、模擬面接セミナー、就活カウンセリング、身だしなみ・マナー講座 等)
 - ・就活日本語講座

留学生交流事業への助成

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人等が運営する事業に対して助成を行いました。

留学生への宿舍の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舍を提供するとともに、北九州学術研究都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」(1人年間60万円)を給付しました。

●令和5年度受給者数／20名

冠奨学金の給付

高度人材として国内外で活躍が期待される学研都市の留学生と地域企業等のネットワーク構築支援を目的として創設され、株式会社牧野プライス製作所から寄付金(総額60万円)をいただき奨学金を給付しました。

●令和5年度受給者数／1名

語学教育センターの運営

留学生を対象に、日本語の講座を開講する語学教育センターを運営しました。

- 日本語クラス／春期 初級1.2.3.4、中級会話(7クラス)
秋期 初級1.2.3.4、中級会話(6クラス)
- 令和5年度受講者／148名

海外との交流促進

各大学における海外大学との交流協定 (令和6年5月現在)

【北九州市立大学国際環境工学部・同研究科・環境技術研究所(42機関)】

インド:インド工科大学ボンベイ校、フランス:パリ・シテ大学、中国:大連理工大学、ベトナム:ベトナム国家大学ハノイ校
タイ:タマサート大学 他37機関

【九州工業大学大学院生命体工学研究科(9機関)】

韓国:世宗大学校ソフトウェア融合学部
フランス:ボルドー工科大学ENSEIRB-MATMECA大学院
トルコ:コンヤ工業大学工学自然科学部 他6機関

【早稲田大学大学院情報生産システム研究科(52機関)】

中国:浙江大学、台湾:国立成功大学、韓国:全南大学校、タイ:タマサート大学、フィリピン:アテネオ・デ・マニラ大学 他47機関

進出企業

令和6年5月1日現在					
入居場所	企業名	事業内容	入居場所	企業名	事業内容
産学連携センター	石田特許事務所	特許、及び実用新案・意匠・商標登録の出願手続の代理、特許出願等に関するコンサルティング	事業化支援センター	㈱ワークス	ワイヤレス給電技術を利用した消化管内自走式カプセル内視鏡の開発
	プラントメイク RISE ㈱	焼却炉設備におけるコーティング剤開発、3D スキャナーによる構造計算ソフトの開発		● ㈱ロボサイエンス	小型水中ロボット(船底清掃ロボット等)の開発
	㈱アイシン	画像認識・空間認識、車両制御等の要素技術開発		㈱アポロジャパン	スクリーンコードおよび自動運転の基盤技術開発
	㈱ケーメック	電気設備・計装設備・FA 設備の設計・製作、マテハン関連機器の設計・製作、各種装置据付・メンテナンス、コンピュータシステムの設計・製作		HM コネクト	除菌・抗菌・消臭液の効果検証及び効果持続性のある商品の開発 クリスタル硝子内部にレーザー彫刻した絵柄のLED 照明演出装置開発
共同研究開発センター	㈱セキュリティ情報研究所	システム開発、システム保守(24 時間 365 日)	技術開発交流センター	(一社)進路指導・キャリア教育支援機構	中等教育における進路指導・キャリア教育・就職指導の研究
	㈱ Power Diamond Systems	ダイヤモンド半導体デバイスの研究開発		● ハインツテック㈱	細胞内への物質導入・細胞内物質抽出のための、ナノ構造体を用いたツールの開発・製造、およびそれらを用いた研究開発支援
情報技術高度化センター	㈱ K2R	触媒反応を利用したラジカル種含有の水の生成装置の研究開発		LOVO&Co.	クラウド上の生産設備を利用するスマートファクトリーの構築
	三島光産㈱	薬剤自動除包分配機及び調剤薬局関連機器の開発、製造		(同)ノーエン	農業における気象データ活用に関わる研究・開発
	● (同)数理科学研究所	数理科学に関する研究及び開発事業		フォースウェア・パートナーズ㈱	ロボットを使った自動化・省力化システムに伴う、ソフトウェアの開発システムの実証作業
	㈱ ITS	組み込みシステムの設計・開発および、半導体集積回路等電子部品の研究開発	技術開発交流センター	● (同)共創テクノロジー	VR、Web システムなどソフトウェア開発、イベント制作、3D プリンティング技術に関するコンサルティング
事業化支援センター	㈱華仁サービス	外国人留学生の誘致及び就職に関するマーケティング戦略の研究		SKO ㈱	自動車製造工程におけるシステム管理の効率化を目指し、学研都市の大学と連携した研究
	㈱ Windy	病院、薬局で使用するソフト開発、自動車工場での作業分析ソフトの開発		㈱ On&on	DX 技術を活用したオリジナル和菓子の開発
	● ㈱ビー	画像処理システムおよびソフトウェアの研究開発		● RoboPlus ひびきの㈱	メカトロニクス設計・製造および販売、コンサルタント業
	● 実研開発㈱	臨床工学教育機材、光伝送生体信号測定装置の開発・販売		STRATOVISION	超音波式風速計に関する開発業務 滑空回収型気象観測気球システムに関する研究開発業務
	● ㈱ブラテック	Web システム開発、アカデミックソリューション事業		㈱シンコム	半導体関連及び AI 事業の受託設計
	アネーラ税理士法人	監査業務、各種税務書類の作成、税務代理、税務相談、税務コンサルティング		㈱シキノハイテック	半導体設備の設計 / 製作 / 調整、LSI 回路設計 / レイアウト等
	㈱ AK システム	半導体製造装置製作技術等の新産業分野 (医療・福祉等分野)への応用研究開発		吉川工業㈱	RF-ID に関する研究開発事業
	● アーティックス㈱	IoT、人工知能、ブロックチェーンなどに関する研究開発		㈱ C&G システムズ	金型設計・加工用 CAD/CAM ソフトウェア開発
	豊光社テクノロジーズ㈱	分子接着技術を用いた曲面配線技術及び高輝度・高信頼性 LED 照明の研究開発		シャボン玉石けん㈱	無添加の化粧石けん、家庭用洗剤、消火剤などの製造販売
	● レアメタル技研㈱	リチウム吸着剤の大量合成による事業化		㈱トリコ	電気部品の開発・修理
事業化支援センター	環境エネルギー㈱	バイオジェット燃料の開発・実用化、バイオディーゼル燃料の高品質化		● ㈱ FILTOM	プラセンタエキス (豚胎盤液) を使った化粧品の開発・製造・販売
	● ひびきの電子㈱	電界共振型生体センシング及びセンシングデータ解析システムの開発		● ㈱セキュアサイクル	行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発およびセキュリティ事業
				KOA ㈱	電子部品、センサ素子、センサモジュールに関する情報収集、情報交換ならびに産学共同開発
事業化支援センター				㈱正興電機製作所	電力、環境エネルギー分野などのインフラ業界を中心とした、独自の情報・制御による製品・サービスの提供

入居企業数: 46 社
※●印は学研都市発ベンチャー企業(13 社)

地域交流イベントの開催

第19回北九州学術研究都市ひびきの祭

地元自治会や地域の方々との協同による「ひびきの祭」を開催し、多くの方へ科学やモノづくりへの興味を喚起する場を提供しました。

日程／ 令和5年11月12日(日)
会場／ 北九州学術研究都市
内容／ 【FAIS企画】
・ドキドキわくわく 発見!身近な科学
・ものづくり教室
・サイエンスカフェ
・学研おもしろ体験クイズラリーなど
【地域団体等企画】
・ひびきの秋祭り2023
(屋外ステージ、地域のお店の出店など)
来場者／ 約4,700人



デジタルクリエイター教室

市内の小学校3校の5年生を対象に、学校のタブレット端末を使って自分で映像制作ができるよう、デジタルの基本スキルを楽しく学び、実践する教室を開催しました。

日程／ 令和5年11月～12月(延べ4日間)
会場／ 学術情報センター 遠隔講義室1
参加者／ 411人



脱出ゲーム「異世界からの脱出」

学術研究都市内の学生や近隣の住民の方々に、もっと図書館に親しんでいただくことを目的として開催しました。

日程／ 令和5年11月12日(日)
会場／ 学術情報センター 1階および図書室
内容／ 一度足を踏み入れた異世界の図書室から元の世界に戻るために、館内にちりばめられた謎を解き脱出するゲームを開催しました。
参加者／ 約500名



ウィキペディアタウン in 学研都市

地元の観光資源となり得る史跡や施設などをめぐり、インターネットの百科事典ウィキペディアに記事を作成し、街の魅力を世界に発信するイベントを開催しました。

日程／ 令和5年11月25日(土)
会場／ 学術情報センター 講義室1
内容／ 午前:街歩き(テーマについて情報収集)
午後:図書資料調査、編集、公開
参加者／ 10名



広報活動

積極的な情報発信

北九州学術研究都市の取り組みや成果を、さまざまな機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行っています。

令和5年度報道件数／171件
(内訳: 新聞89件、テレビ・WEB等76件、雑誌等6件)

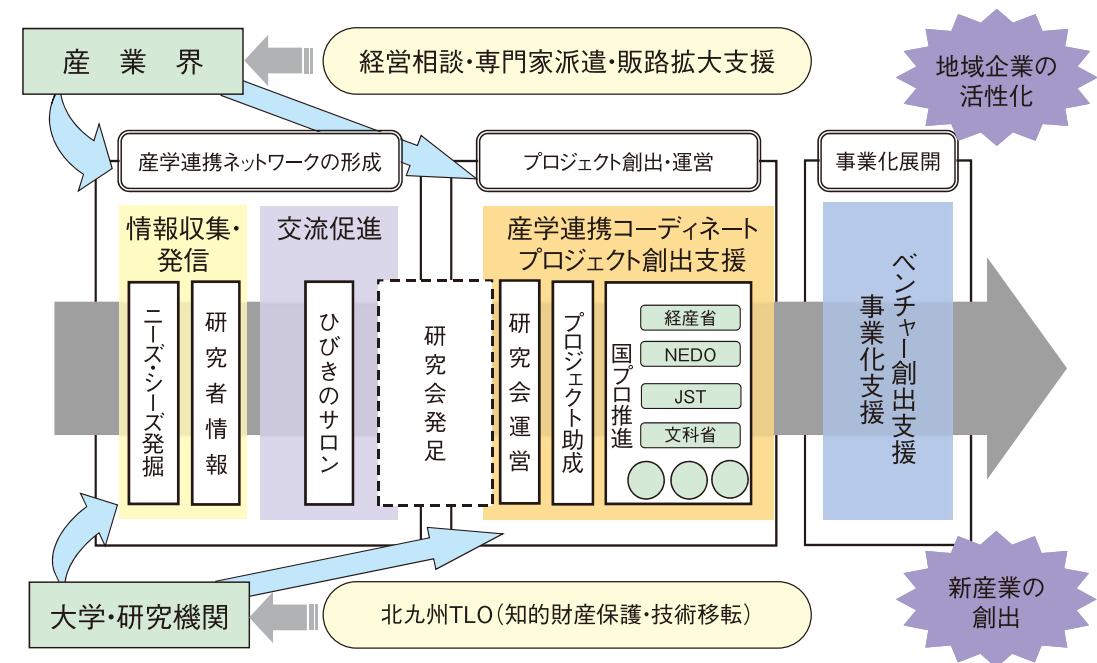
国内外研究者等の受け入れ

北九州学術研究都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学術研究都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介しています。

令和5年度視察者数／143回/1024人

産学連携の推進

産学連携の取り組み(全体フロー)



情報収集・発信、産学交流の促進

学研都市内研究者の情報提供

- FAISのHP上に「研究者情報検索システム」を構築
—— 技術キーワードや所属、研究者名等で検索可能
- 検索システムの情報を基に「北九州学術研究都市の研究者情報」(リーフレット)を作成

毎年、市内外の企業等に配布
【令和5年度配布数】 1,800部



研究者情報
検索システム
TOP画面



研究者情報
(リーフレット)

メールマガジンによる情報発信

- 「産学連携センターNews」を配信(平成16年9月～)
セミナー情報や産学連携に関するトピックを随時掲載

◎配信先 約6,200件
◎配信件数 通算1,095通配信(令和6年3月31日現在)
◎毎週月曜日配信

産学交流の場

産学交流サロン(ひびきのサロン)の開催

北九州学術研究都市から新たな産学連携の動きが次々と生まれてくることを目指し、産学官から複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場「産学交流サロン」を開催しています。平成14年度のスタートから令和5年度までに208回開催し、のべ19,839人の方が参加しています。

【令和5年度実績】

回	テーマ・講座名	発表者	参加者数
第204回 9/15	第1回孔拡散膜応用研究部会 「孔拡散膜とはなにか」	福岡女子大学 名誉教授、 真鍋技術士事務所 所長、 日本特殊膜開発株式会社 研究所長・専務取締役、 株式会社フィルトム 名誉会長 真鍋 征一 氏 他1名	20名
第205回 9/27	北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業 「専門技術者育成カリキュラム」	日産自動車株式会社 車両計画・車両要素技術開発本部 車両計画・性能計画部 PT・EVシステム設計グループ 主担 小林 梓 氏	43名
第206回 10/6	「産業界で活躍する技術系人材に 求められるものとは」 ～第10回カーロボ・AI連携大学院交流会～	日産自動車株式会社 R&D人事部 アシスタントマネージャー 岩本 洋太郎 氏 他3名	45名
第207回 10/27	～GXシンポジウム 「気候変動対策に係る国内外の最新動向と企業の取組」 ～北九州地域におけるGX推進の枠組み構築に向けて～	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授、 環境省 中央環境審議会 会長 高村 ゆかり 氏 他4名	181名
第208回 11/6	第63回北九州医工学会議 「アフターコロナを見据えた 医・歯・工のさらなる連携を目指して」	九州歯科大学 歯科放射線学分野 助教 西村 瞬 氏 他5名	25名
第209回 11/16～17	合同企画 第209回産学交流サロン「ひびきのサロン」& 第17回IPS海外連携シンポジウム (ISIPS2023)	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 教授 李 義頌 氏 他3名	278名
第210回 12/5	「先端半導体技術セミナー」 ロジック半導体技術ロードマップに対応した 研究開発オープンプラットフォームとその戦略的位置づけ	国立研究開発法人産業技術総合研究所 先端半導体研究センター 招聘研究員 兼務 エレクトロニクス・製造領域 審議役 林 喜宏 氏	82名
第211回 2/14	令和5年度 北九州市・FAISサプライヤー応援隊現場派遣事業および 北九州市ロボット・DX推進センター5S等専門家派遣事業 成果発表会	株式会社岡崎製作所 取締役総務部長 岡崎 晴美 氏 他2名	52名
合 計			726名

※法人名は、サロン開催時の名称です。

産学共同による研究会の企画運営

令和5年度研究会活動

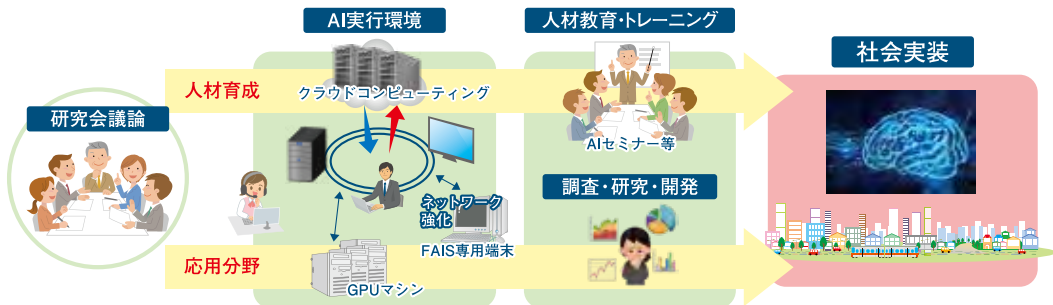
先端的で波及効果が高いと予想される技術分野に関するテーマや、事業化の可能性の高いテーマについて、産学共同による研究会を企画・運営し、研究開発につなげる活動を進めています。

研究会の取り組みは、国等プロジェクトの採択につながっています。

令和5年度は「ひびきのAI社会実装研究会」など9つの研究会を運営しました。

ひびきのAI社会実装研究会

企業ニーズと学研都市研究者の技術シーズのコーディネートを行い、AIを活用した電力需要の予測システムの確立・自動化など様々なテーマについて研究開発を進めています。また、人との親和性の高いシステム構築に貢献する基盤技術(スパースモデリング)や、実時間処理や低電力消費を実現するAI向けのハードウェアの研究開発を支援します。



研究開発支援

企業・大学等が実施する研究開発に対する支援

大学等の研究機関、市内企業が実施する研究開発のために補助金を交付し、新技術・新製品の開発を支援しています。

FAISの研究開発に対する支援制度(令和5年度)

◎研究開発プロジェクト支援

名 称	概 要	対象者	補助額(補助率)	助成期間
シーズ創出・実用性 検証事業	産業振興の促進に資する分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証するための研究開発に対して補助金を交付	市内大学等 (1)若手・チャレンジ枠 (2)一般枠	200万円以内(1/1) ※ロボットやDXに関するものは 300万円以内	単年度
実用化研究開発 事業	産業振興の促進に資する分野において、技術の高度化・製品の実用化並びに新産業の創出を目指す研究開発に対して補助金を交付	市内企業等	中小企業 500万円以内(2/3) そ の 他 500万円以内(1/2)	単年度
次世代産業イノベー ション創出事業	半導体、自動車、宇宙等今後成長が見込まれる重点分野において、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発に対して補助金を交付	(1)市内大学等(単独) (2)市内大学等(企業等との連携) (3)市内企業(大学等との連携) (4)市外企業(市内大学等との連携)	単独300万円以内 連携1,000万円以内 (大学等1/1、中小企業2/3、 中小企業以外1/2)	単年度
衛星データ利活用実証・ 新技術開発事業	今後成長が見込まれる宇宙関連分野の衛星データ(観測・測定・通信の各データ)の利活用モデルの実証や新たな技術開発に対して補助金を交付	(1)市内大学等(単独) (2)市内大学等 (市内大学等や企業等との連携) (3)市内企業(単独) (4)市外企業 (市内大学等や企業等との連携)	一般200万円以内 大規模500万円以内 (大学等1/1、中小企業2/3、 中小企業以外1/2)	単年度

令和5年度採択実績

【シーズ創出・実用性検証事業】18件

採 択 テー マ 名		申 請 大 学 等
若 手 ・ チ ャ レ ン ジ 枠	敵対的生成ネットワークに基づく熱画像生成モデルの確立と監視システムへの応用	北九州市立大学
	柔軟メカニズムを用いた超小型ロボットハンドの開発とその医療応用	早稲田大学
	ポータブルIoTを活用した観光ルート設計手法の構築	早稲田大学
	フレキシブル性を有する薄膜型熱電変換素子への実装に向けた	九州工業大学
	高性能ハロゲン化ペロブスカイト熱電変換材料の開発	九州工業大学
	陽極酸化による亜鉛電極のCO2資源化技術の開発	九州工業大学
一 般 枠	細胞間の情報伝達を電気的に解析可能な細胞外電位分離計測デバイスの開発	九州工業大学
	毛包の新生から毛再生過程を観察する画期的なシステムを構築し、 毛再生産業に新たな実験系のスタンダードを提供する	九州歯科大学
	移動型アーム式ロボットによる縦型木材積層構法を用いた木造住宅建設法の開発	北九州市立大学
	柔軟不定形物を対象とする疑似骨格推定から得られた骨格の重心解析によるロバストな把持の 実現と実用を見据えた高速データセット自動生成手法の確立	北九州高専
	徘徊阻止技術の実用化開発と検証	九州工業大学
	マルチ酵素生成菌Aeromonas hydrophila ST5株を用いたウイルス無害化技術の開発	九州工業大学
	センサ装着杖による活動量推定手法の開発	九州工業大学
	ダイヤモンド半導体デバイスの社会実装に向けたリーク電流低減手法の開発	九州工業大学
	負荷機器への一次調整力機能付加による需給調整力提供の実用性検証	九州工業大学
	VR空間における認知心理実験の設計とその考察	九州工業大学
	スマートファクトリーのための異常検知システムの開発(壊れない産業用ロボットシステムへの展開)	九州工業大学
	導電性スポンジを用いた触覚吸着パッドの評価と利用方法の提案	九州工業大学
	廉価ハイドロフォンアレイを有するオドメトリーレスAUVの開発	九州工業大学

【実用化研究開発事業】2件

採 択 テー マ 名	申 請 企 業 等
繊維補強型枠を使用した港湾構造物の補修・補強工法の開発	ダイキ工業(株)
浮遊細胞を対象としたナノ注射器による細胞間物質輸送システムの開発	ハインツテック(株)

【次世代産業イノベーション創出事業】 3件

採択テーマ名	申請企業等
木質バイオマスから生分解性新規コンポジットを創製するための技術基盤の構築	九州工業大学
低環境負荷な製造およびケミカルリサイクルが可能な光学樹脂の開発	九州工業大学
バス事業者熟練運転手の暗黙知を組み込み可能にする論理知識型AIを活用した自動運転バス事業化に向けた革新的危険情報検知システムの開発	九州工業大学

【衛星データ利活用実証・新技術開発事業】 4件

採択テーマ名	申請企業等
衛星データを活用する感染症予測技術への利用とビジネスモデルの確立【大規模】	北九州市立大学
衛星画像高精細化のためのAI駆動センシング技術の確立【大規模】	北九州市立大学
ローカル光学計測データにより補正した衛星光学データを活用した温室および水面下の植生把握技術の開発【一般】	北九州市立大学
衛星オンボードでの高速画像処理・信号処理・機械学習とアップデート機構の実現【大規模】	北九州市立大学

◎旭興産グループ研究支援プログラム

名 称	概 要	対象者	補助額（補助率）	助成期間
若手研究者 ステップアップ支援	旭興産グループの支援を得て、新しい時代に 予見される課題の解決につながるテクノロ ジーの研究（斬新、独創的かつ挑戦的で将来 の発展が見込まれるものに限る）に対し補助 金を交付	北九州市内に設置された 大学等に所属する 研究者で、かつ、 ア 39歳以下 イ 博士学位取得後8年未満 のいずれかを満たす者	Aタイプ Bタイプ 初年度 500万円 200万円 2年度 300万円 200万円 3年度 200万円 100万円 計 1000万円 500万円 ※研究開発予算に応じて、 A・Bタイプを選択（1/1）	3年以内

令和5年度採択実績

【若手研究者ステップアップ支援】 3件

採択テーマ名	申請大学等
細菌と歯科の革新的技術:歯および歯科材料”自己治癒”の実現	九州歯科大学
ハロゲン化ペロブスカイト熱電変換材料を用いた薄膜型高性能フレキシブル熱電変換素子の開発	九州工業大学
機電一体型不平衡電圧補償器付誘導機的主回路方式およびトルクリプルモニタリングシステムの研究	九州工業大学

FAIS助成制度の主な成果事例（令和4年度採択テーマより）

【研究テーマ】北九州産の希少な完全非加熱ミルクセラミド原液の量産化開発

【申請企業】株式会社 F I L T O M

市内の牧場である濱崎デイリーファームやアレルギーテスト法開発を担当した北九州市立大学などと連携し、牛乳を使用した化粧品用新素材「生ミルクセラミド」の開発に世界で初めて成功しました。また「生ミルクセラミド」を配合した化粧品も同時に開発し、R5年4月から販売を開始しています。



生ミルクセラミド(左)と一般的な加熱ミルクセラミド(右)



濱崎デイリーファーム



生ミルクセラミドm9シリーズ(化粧品)

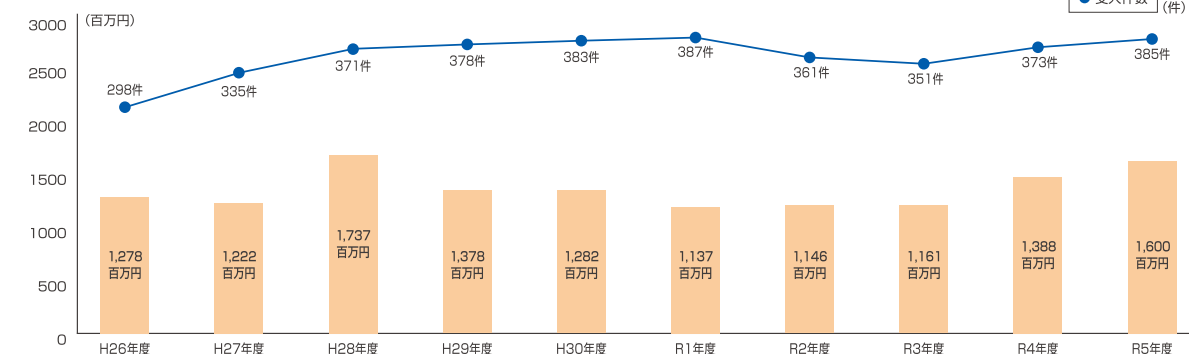
国等の資金を活用した研究開発プロジェクトの推進

「成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省）」等、国等の資金を活用した産学連携の研究開発プロジェクトを積極的に実施しています。

令和5年度は、各大学における受託研究等と合わせて385件のプロジェクトに取り組みました。

外部資金の積極的な獲得

学研都市における外部資金の受入状況の推移（大学及びFAISの合計）



近年の主な研究開発プロジェクト

経済産業省	
港湾コンテナ基地における蔵置作業効率を最大化する蔵置アルゴリズムのシステム開発 【成長型中小企業等研究開発支援事業】	R4年度～R5年度 1億889万円
次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	R1年度～R3年度 1億2,264万円
三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	R1年度～R3年度 1億2,580万円
5G対応高周波用材料(ガラス・セラミック・テフロン等)への分子接合とメッキ技術を融合した高周波対応次世代メッキ技術の開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	R1年度～R2年度 1億154万円

内閣府	
ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発 【戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）】	H26年度～H30年度 8億4,000万円

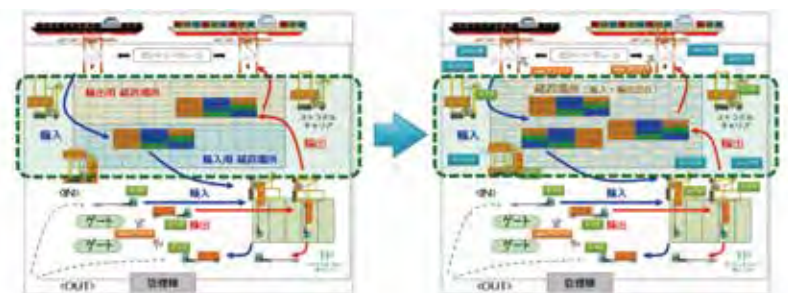
J S T	
スマート社会創造に向けたソーシャルイノベーション研究開発・実証拠点 【世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム】	H27年度～H28年度 3億3,500円

文部科学省	
IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業 【地域イノベーション・エコシステム形成プログラム】	H28年度～R2年度 2,150万円
微細加工プラットフォーム 【ナノテクノロジープラットフォーム事業】	H24年度～R3年度 1億円

FAISが支援した研究開発プロジェクトの主な事例（Go-Tech）

経済産業省補助事業	研究開発名 / 企業（補助事業期間）	支援内容
Go-Tech事業	港湾コンテナ基地における蔵置作業効率を最大化する蔵置アルゴリズムのシステム開発 / 株式会社シスコム（令和4年度～5年度）	応募申請支援、補助事業支援

Go-Tech事業取組事例「港湾コンテナ基地における蔵置作業効率を 最大化する蔵置アルゴリズムのシステム開発」



改造を行ったガントリークレーンと機器

輸出入を統合化し、蔵置効率を大幅に向上し、トラックの渋滞削減、運送効率大幅向上、運送費用の削減が可能になった。

《実証環境での結果(7日間平均)》				
作業時間	現行値	荷役値	削減後	削減値
ゲート作業	10分44秒	1分50秒	9分02秒	7.35秒
船作業	10分36秒	2分29秒	8分21秒	14.13秒
全作業	10分40秒	2分09秒	1分58秒	10.74秒 (18.52%)*

※ 対象作業件数: [ゲート作業]4,698件 [船作業]4,991件 計9,689件
平均荷役削減率: -16.2%、平均荷役時間: 129秒、平均荷役回数: 1.1回
* ゲート作業・船作業本数と平均削減時間から算出

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》

FAISは「北九州TLO(Technology Licensing Organization)」を運営し、地域の大学等の研究者が生み出した研究成果(発明)を特許化し、それらを民間企業へライセンス契約等によって技術移転しています。この技術移転により企業から得られたライセンス収入等の大半を研究者や大学に還元し、新たな研究開発につなげています。北九州TLOの保有技術シーズは、ホームページでも紹介しています。

北九州TLOの仕組み・特許出願等



これまでに事業化・製品化された事例(一部掲載)

「発明の名称」(事業化・製品化の概要)	「発明者・研究代表者」
「界面活性剤系組成物」、「水添加型の消火剤」 (環境にやさしい世界初の石けん系消火剤)	北九州市立大学 上江洲一也教授、河野智謙教授 他
「解剖台」(医学実習用ホルムアルデヒドの直接暴露防止)	産業医科大学 大和 浩教授、菊田影夫教授 他
「マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置」 (環境にやさしいマイクロ波を用いた減圧乾燥方法)	九州工業大学 鶴田隆治教授 他
「曳糸性測定装置」 (あらゆる流動物質のネバネバ度を測るシンプルなメーター)	九州歯科大学 西原達治教授、柿木保明教授 他
「アスペルギルス属菌及びリゾープス属菌の混合培養系を用いた アミラーゼの生産方法」 (高い酵素活性や豊富な酸を特性とした新しい麹菌)	北九州市立大学 森田洋教授 他

環境にやさしい世界初の
石けん系消火剤



製品化企業
シャボン玉石けん(株)



環境にやさしい
マイクロ波を用いた
減圧乾燥方法



製品化企業
西光エンジニアリング(株)



あらゆる流動物質の
ネバネバ度を測る
シンプルなメーター



製品化企業
(株)石川鉄工所



学研都市を中心としたGXの推進《北九州GX推進コンソーシアムの運営》

2050年カーボンニュートラルに向けたグリーンTRANSフォーメーション(GX)の動きは世界的に加速しており、わが国でも今後10年間で150兆円を超える官民GX投資が見込まれています。そこで、FAISは、2023年10月27日に、『「ひびきのサロン」～GXシンポジウム』を開催し、企業関係者、研究者、学生、行政関係者、金融機関等、多くの方々に、気候変動問題の現状を理解していただくと共に、北九州地域におけるGX推進の枠組み構築の必要性を提起しました。さらに、同年12月12日には、カーボンニュートラルを成長の機会と捉え、官民GX投資を呼び込み、GXをより一層推進していくため、北九州市と共同で、「北九州GX推進コンソーシアム」を創設しました。

この「北九州GX推進コンソーシアム」の枠組みを活用して、北九州学術研究都市等での研究開発など、北九州のポテンシャルを活かした産業集積や、地域企業の成長、新産業を創出に取り組んでいます。

北九州GX推進コンソーシアムの推進体制



産学官金が一体となって北九州市のGXを推進する体制を構築しています。

役職等	名称等
会長	北九州市長
副会長	北九州商工会議所会頭、北九州産業学術推進機構理事長
産	北九州商工会議所、北九州中小企業団体連合会 GXの知見を持つ企業、GXを推進する企業
学	北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、福岡大学 北九州工業高等専門学校、地球環境戦略研究機関(IGES)
官	経済産業省、環境省、福岡県、北九州市 北九州産業学術推進機構(FAIS) 【事務局】北九州市、FAIS
金	金融機関



令和5年12月12日
「北九州GX推進コンソーシアム」創設

エネルギーイノベーション総合展に出展しました

2024年1月31日から2月2日まで東京ビックサイトで開催された「エネルギーイノベーション総合展」(主催:一般社団法人省エネルギーセンターなど)の「第18回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム」に出展しました。同展示会は国内最大級の「エネルギーイノベーション総合展」として、カーボンニュートラルや再生可能エネルギー、エネルギーマネジメント等に関する15の展示会が同時開催されました。FAISからは「GX推進」をテーマにブースを出展し、北九州GX推進コンソーシアムの取組や北九州学術研究都市でのGXに資する研究概要の紹介を行いました。



技術拠点化の推進

半導体・研究開発技術拠点化の推進

半導体産業関連企業支援

半導体設計ツールやIC・MEMS微細加工装置、評価・解析機器を整備し、半導体・エレクトロニクス関連企業に対して、設計から製造、評価・解析までの一貫した設備環境を提供し、北九州市における半導体産業の振興に努めています。

■IC・MEMS微細加工環境の提供

共同研究開発センターでは、IC・MEMSなどを作製する微細加工設備を提供しており、大学・研究機関、企業などの基礎研究からプロトタイプ試作まで幅広く支援しています。

■半導体評価・解析環境の提供

信号発生器や波形分析器等の評価機器、X線透視装置やマイクロスコブ等の解析機器及び環境評価装置など、充実した評価・解析環境を提供しています。

半導体技術者育成講座（ひびきの半導体アカデミー）の開催

半導体技術者育成講座「ひびきの半導体アカデミー」を見直し、市域企業や高専等ニーズを反映した、半導体のものづくりの全体像が分かる基礎教育を提供しています。

- ・半導体前工程プロセスエンジニア基礎講座
- ・半導体活用基礎講座
- ・半導体ものづくり（LSI）基礎講座
- ・半導体ものづくり（パワーデバイス）基礎講座など

●令和5年度／講座数 10講座、参加者数 250名

自動車技術拠点化の推進

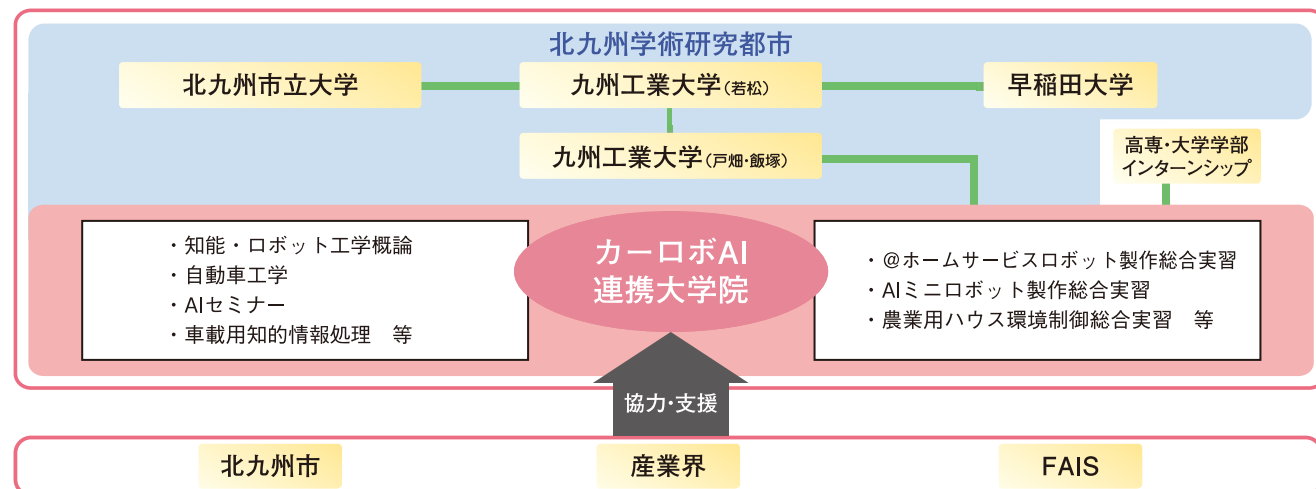
北九州地域における次世代自動車技術の拠点化を目指し、北九州学術研究都市における高度人材の育成を支援するとともに、地域の関連企業の電動化等に向けた環境整備や技術力の底上げ、産学連携による先端的研究開発などを支援しています。

人材育成の推進

カーロボAI連携大学院

高度化・知能化が進む自動車、ロボット、人工知能（AI）の各分野で、次世代を担うリーダーとしての高度専門人材の育成を目的に、学研都市の3大学が運営する連携大学院の教育プログラムを支援（民間講師の紹介等）しています。

また、連携大学院生の企業研究や職業観醸成等のため、日本を代表する自動車・ロボット等関連企業の人事担当者・技術者と少人数で意見交換する機会（オフサイト・ミーティング）の提供等も行っています。



地場企業支援

CASEといった言葉に代表される、100年に一度の大変革の真ただ中にいる自動車産業界において、企業のCASE対応、生産性向上、ものづくり力の向上、企業の人材育成の拡充などを目指して、地場企業を支援しています。

北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業

①人材育成事業

企業の階層別に必要な能力を整理し、それぞれに必要なスキル・技能を学べるようなカリキュラムを編成しています。最新の自動車部品に搭載されている技術や開発動向、自社内で体系的な人材育成体制を整備できない中小サプライヤーの技術者向けの内容も意識して、取り組んでいます。

若手・中堅技術者育成カリキュラム	リーダー・幹部育成カリキュラム	専門技術者育成カリキュラム
内容 1. 日常管理と方針管理 2. 2S・5Sと安全活動 3. 職場内「対話力」の強化 4. QCの基礎 5. 5S・QC実践活動 など	内容 1. 管理・監督者の役割 2. 方針管理 3. 人材育成 4. 原価管理・生産管理 5. 生産性向上 6. グループ討議 など	内容 現役技術者が最新の自動車部品モジュールに搭載された部品の技術動向・構成等を解説。 1. 最新の日産EV/e-POWERシステムの技術解説と部品構成 2. 構成部品の紹介 など



②TQM出前講義事業

CASE等新規事業に取り組む企業の体制強化等を図るため、経営者・管理者を対象に、総合的品質管理活動（TQM）の出前講義を実施。

③現場派遣事業

EV化等の自動車産業を取り巻く環境の変化に対応するため、自動車メーカーOB等のアドバイザーを企業に派遣し、現場改善や技術導入の実践を通してEV化に向けた環境整備や技術の磨き上げなど、各企業の状況に応じた伴走支援を実施。

研究開発の推進

「パーツネット北九州」や「北九州自動運転推進ネットワーク」、「東田MaaSプロジェクト」の事務局運営を通じて、セミナーや勉強会、視察会の開催、実証事業等を実施し、産学連携、会員企業同士の連携を強化することにより、部品の軽量化等の脱炭素社会の実現に資する環境技術や自動運転関連技術など、学研都市のシーズを活かした特色のある自動車関連技術の研究開発を支援します。

次世代自動車に関する研究開発

（北九州空港～JR朽網駅 自動運転バス実証事業）

自動運転分野への新規企業等の参画を図り、研究機関と連携することで、新ビジネスの創出を図るとともに、自動運転の社会実装の実現を目的として、国交省補助金（自動運転実証調査事業）を活用し、北九州自動運転推進ネットワークの会員を中心に、自動運転バスの実証事業を実施。

【令和5年度実証概要】

運行ルート 北九州空港～JR朽網駅

実証期間 12月12日-22日（9日間）

自動運転レベル レベル2（必要に応じて運転士による手動介入）

試乗者 関係者のみ（221人）

参加団体 西鉄グループ、A-Drive、アイサンテクノロジー、
いすゞ自動車、YE DIGITAL、九州工業大学、北九州市、FAIS

産学連携の取組み

九州工業大学、アイサンテクノロジー、西鉄グループが連携し、熟練バス運転士の目配りなど危険を先読みするノウハウを人工知能（AI）に学ばせて自動運転の安全性を高める革新的危険情報検知システムを共同研究。



中小企業へのロボット導入支援、DX推進

北九州市ロボット・DX推進センター



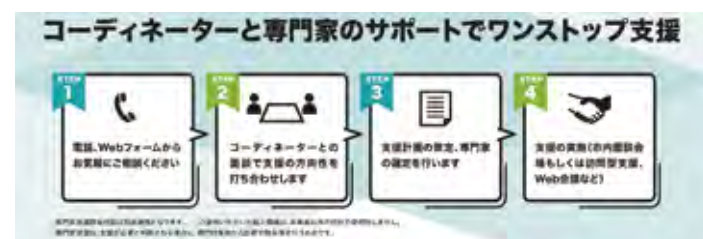
北九州市ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援するために、2022年4月から活動を開始しました。

当センターでは 導入支援 操作体験 人材育成 等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援しています。

また、集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たしています。

ワンストップ相談窓口の運営

ワンストップ相談窓口では、ロボット導入や、デジタル技術を活用したDXの推進に関する相談を受け付け、コーディネータによる支援計画の作成や専門家による伴走支援を行います。



【ワンストップ相談窓口連絡先】

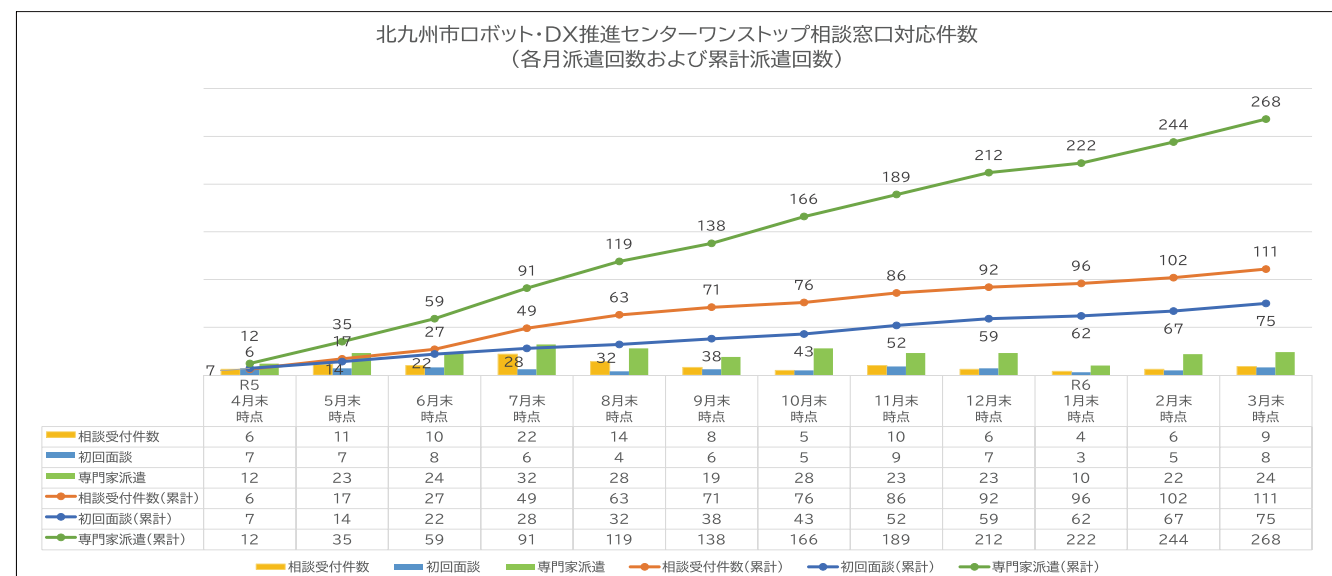
<https://ktq-robodx.jp/>

TEL : 093-695-3090

(受付時間：平日9時～17時)



ワンストップ窓口 専門家・コーディネータ派遣実績件数



ロボット導入支援等に関する取り組み

ロボット技術開発拠点化の推進・中小企業へのロボット導入支援

ロボット研究開発支援

- ロボット関連プロジェクト支援
- ロボット産業マッチングフェアの開催
- 国際ロボット展等への出展支援
- 各種技術セミナーの開催・情報発信



開発支援したロボットの成果報告会

※北九州ロボットフォーラムの事務局として新ロボット開発を推進

産業用ロボット導入支援・人材育成

- ロボット導入による生産性向上支援
- ものづくり人材育成講座の開催
- ものづくり企業への現場派遣
- 各種補助金の申請支援
- システムインテグレータとの連携推進
- ロボット導入につながる情報提供
- 生産性向上スクールの開催、工業高校生、大学生のインターンシップ受入



ロボットのデモンストレーション展示

※ロボット・DX推進センターを拠点として、ロボット導入に関わる取り組みを実施

【令和5年度の取り組み】

ロボット研究開発支援

一地域の産学官連携の仕組みづくりー
ロボット産業マッチングフェア・セミナー開催
ロボット産学意見交換会開催



市内のロボット関連企業や大学等18団体が出展する展示会を課題解決エキスポ2023と同時開催。また、産学意見交換会を開催し、産学連携の強化を図った。

一ロボット開発研究成果の情報発信・産業振興ー
国際ロボット展出展



市内の大学と、2023国際ロボット展（東京ビッグサイト）に出展。国内外からの来場者に対して研究成果の情報発信を行った。

研究開発支援

産業用ロボット導入支援

ロボット・DX推進センターを拠点として、市内企業の生産性向上・ものづくり力強化を目的にロボット導入を総合的に支援します。

- ロボット導入に関する企業訪問・技術相談
- 人材育成（ロボット技術者およびシステムインテグレータ）
- ロボット導入に関する情報発信

令和5年度の活動内容

- ロボット導入支援
 - 産業用ロボット等導入支援補助金 6社
 - 産業用ロボット等導入前検証補助金 1社
- 現場派遣・技術相談
 - 市内企業：183件、市外企業：28件
- 生産性向上スクール
 - ロボット編5講座、のべ18名の参加者
- 提携セミナー
 - ロボット編4講座、のべ46名の参加者
- システムインテグレータ・ネットワーク推進
- インターンシップ受入
 - 工業高校：2校、大学・大学院：2校



①ロボット導入事例



②ロボット導入事例



③生産性向上スクール



④工業高校インターンシップ

導入支援・人材育成

内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業

【計画名】革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト
【参画機関】北九州市、北九州産業学術推進機構、九州工業大学、(株)安川電機、他
【事業期間】平成30年～令和9年（うち、国補助期間5年間）

1.革新的ロボットテクノロジーによる「自律作業ロボット」の研究開発【九州工業大学、(株)安川電機】

- 自律作業ロボットの研究開発事業

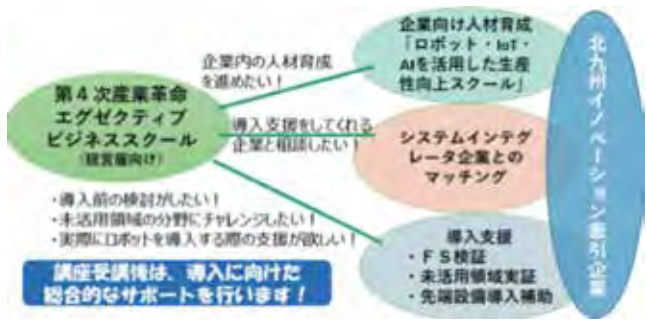


- 国内外からのトップレベル人材招聘事業
新しい産業用ロボットの研究開発に向けて、国内外からトップレベルの研究者・専門家を招聘します
- 中小ものづくり企業の生産性向上のための研究開発支援事業
- 安川テクノロジーセンタ整備事業(交付金事業対象外)



2.先端技術の社会実装の推進(現場主義・実践主義)

- 1)生産性向上支援事業
 - 産業用ロボット導入支援FS事業、導入支援補助金
 - 第4次産業革命 エグゼクティブビジネススクール
 - ロボット・IoTを活用した生産性向上スクール
- 2)人材育成・若者定着事業
 - ロボット導入等の課題解決型インターンシップ事業
 - 有給インターンシップの実施
 - 工業高校・高専・ポリテク等でのロボット教育



北九州市における導入支援策

- 3)北九州市 ロボット・DX推進センターの運営
中小ものづくり企業への産業用ロボット導入等を推進するため、「北九州市 ロボット・DX推進センター」を北九州学術研究都市に開設し、運営しています

3.キラリと光る地方大学づくり【九州工業大学】

- 連携大学院(ロボティクスシンセシス&マネジメントコースの運営)
- AIシーズニーズマッチングシステムの運用
- 有給インターンシップの実施



DX推進に関する取り組み

DX推進補助金を実施

◆3つの補助金枠を設け、市内中小企業のDX推進を取り組み状況に応じて支援を実施。

補助金の種類	デジタル化枠	DXモデル育成枠	DXモデル枠
概要	中小企業の生産性向上を図るため、市内中小企業が実施するDXの各種取り組み経費の一部を補助。また、申請枠を3段階設置し、中小企業のDX取り組み状況に応じた支援を実施。	社内の業務効率化から始めたい事業者様向け	ビジネスモデル変革に向けた戦略策定から始めたい事業者様向け
対象企業	市内に事業所を有する中小企業		
交付上限	最大80万円	最大200万円	最大500万円
補助率	対象経費の1/2以内	対象経費の2/3以内	対象経費の2/3以内
支援した件数(令和5年度)	44件	21件	8件

◆市内中小企業のDX人材育成を行う企業を支援

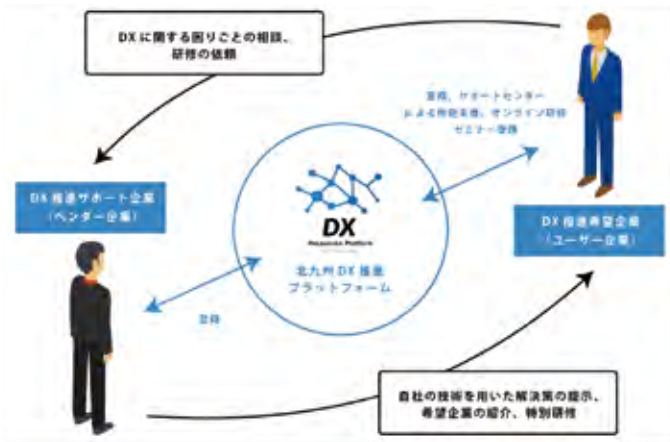
補助金の種類	DXサポート事業
概要	市内中小企業の生産性向上に資するデジタル人材育成を行う事業者を支援
対象企業	市内企業、市外企業
交付上限	最大500万円
補助率	対象経費の2/3以内
支援した件数(令和5年度)	3件



AIを活用した建設DX

北九州市DX推進プラットフォーム

DXを推進したい北九州市内の企業と、DXの推進をサポートする企業をつなぐために、令和2年度に北九州市が創設したプラットフォーム。令和4年度より北九州市ロボット・DX推進センターで運営管理。



— DXを推進したい企業とサポートする企業をつなぐ—



専用Webサイト

北九州市DX推進フェアの開催

北九州市産業経済局次世代産業推進課及び公益財団法人北九州観光コンベンション協会との共催により、課題解決Expo2023内で西日本DX推進フェアを開催し（令和4年度は出展・企画協力）、基調講演・DXトークセッション・北九州市DX推進フォーラムを実施しました。

- 日程／ 令和5年7月5日(水)～7月7日(金)
- 場所／ 西日本総合展示場
- 出展／ 51社
- 来場／ 18,183人(課題解決Expo2023全体)
- 内容／
 - 基調講演
(講師/登壇者:ものづくり太郎氏)
 - DXトークセッション「ものづくりDX」
(講師/登壇者:平川産業(株)、(株)フジコー、日本鉄塔工業(株)、リンクアームズ(株))
 - DXトークセッション「DX製品・サービス」
(講師/登壇者:(株)リョーフ、ミシマ・オーエー・システム(株)、(株)YEデジタル、(一社)まちはチームだ)
 - DXトークセッション「グリーントランスフォーメーション」
(講師/登壇者:(株)西原商事ホールディングス、KIQ Robotics(株)、(株)EVモーターズ・ジャパン、北九州市産業経済局)
 - DXトークセッション「自治体DX」
(講師/登壇者:福岡地域戦略推進協議会、北九州市デジタル市役所推進室、北九州市立大学)
 - DXトークセッション「アトツギDX」
(講師/登壇者:クラウン製パン(株)、(有)白石書店、ミナミホールディングス(株)、熱産ヒート(株))
 - DXトークセッション「北九州IoT実践研究会座談会」
(講師/登壇者:シャボン玉石けん(株)、(株)勝山工作所、(株)ちよっとメーション、(株)戸畑ターレット工作所)
 - DXトークセッション「農業DX」
(講師/登壇者:イシハラフーズ(株)、(株)桃源舎、FAIS)
 - 北九州市DX推進フォーラム
(講師/登壇者:(株)YEデジタル、グランド印刷(株)、(有)ゼムケンサービス、経済産業省商務情報政策局、(一社)日本ディーラーニング協会、北九州市立大学)
-
- 北九州システムインテグレータネットワークの取り組み
- 北九州システムインテグレータネットワークとは
ロボットやデジタル技術等を取り扱うシステムインテグレータ企業19社で構成。
「北九州地域における中小企業の生産性を向上させること」
「北九州地域をシステムインテグレータの拠点とすること」を主目的として、
北九州地域の産業振興を図ることを目指しています。
-
- 北九州システムインテグレータネットワークの活動を強化し、定例会議の開催やロボット産業マッチングフェアへの共同出展、および地元企業へ自動化に向けた提案などの活動を行いました。
- | 令和5年度（2023）主な活動 | |
|-----------------|----------------------------------|
| 令和5年5月～ | 地元製造業と製造ラインの自動化相談/協議 |
| 令和5年5月24日～26日 | 第33回西日本食品産業創造展2023へ会員企業3社登壇 |
| 令和5年7月5日～7日 | ロボット産業マッチングフェア北九州2023へ共同製作ロボット出展 |
| 令和5年8月3日 | 総会開催 |
| 令和6年2月1日 | 宮崎県工業会との交流会にて会員企業4社登壇 |
| 令和6年2月13日 | 佐賀県工業会との交流会にて会員企業5社登壇 |
| 令和6年2月22日 | 鹿児島県工業会との交流会にて会員企業4社登壇 |
| 令和6年3月8日 | Sler's Day in 九州(北九州)にて会員企業5社登壇 |
-
-
-
- エグゼクティブビジネススクールの実施
- 第4次産業革命への対応力を経営トップ自ら検討できる
日本で唯一のビジネススクール
- DX、第4次産業革命が進む中で、デジタル技術を活用し、成長を目指す中小ものづくり企業の経営層向けビジネススクールです。
デジタル技術による、生産性向上、業務革新、事業成長、技術継承、人材育成、国際基準への準拠等の様な利点について理解を深め、自社の進むべき将来像を描けるようになるための講座です。これまでの受講者からは非常に高い評価を得ています。
-
- スクールのカリキュラム(令和5年度)
- | No. | 日程 | 内容 | 講師 |
|------|----------------|------------------------------------|----------------------------|
| 特別講座 | 令和5年8月25日～26日 | DX・第4次産業革命の機会と脅威 | 野村総合研究所
藤野直明氏 梶野真弘氏 |
| 講座① | 令和5年9月8日～9日 | IoT・第4次産業革命の全体像 | 早稲田大学大学院 吉江修氏 |
| 講座② | 令和5年9月29日～30日 | プロジェクトスケジュール管理 | 早稲田大学大学院 藤村茂氏 |
| 講座③ | 令和5年10月20日～21日 | 受注管理業務 | 大分高専 尾形公一郎氏
佐世保高専 柳生義人氏 |
| 講座④ | 令和5年11月10日～11日 | 設計業務の効率化、製造実行管理、品質管理 | 熊本高専 田中禎一氏
鹿児島高専 島名賢児氏 |
| 講座⑤ | 令和5年12月1日～2日 | 製品設計・生産設計と製造現場、アフターマーケットとのデータの統合管理 | 北九州高専 宮元章氏 |
- 生産性向上スクールの実施
- ロボット・IoT・AI等を活用した生産性向上支援事業
- 生産性向上スクールの開催
製造現場の管理者・現場リーダーなどを対象に、生産性向上や新事業開拓に必要なロボット・IoT・AIといった新技術を身に付けるための研修を実施
-
- | |
|-------------------------|
| 実施期間：令和5年9月～11月（全9講座） |
| 内 容：生産性向上のためのIoT編、ロボット編 |
| 受講者数：延べ51名 |
-
- 【スクールのカリキュラム(令和5年度)】
- | | No. | 科 目 | 開 催 日 |
|-----------|-----|--|---------------|
| IoT・デジタル編 | 1 | ラズベリーパイで始めるIoT | 9月20日、9月27日 |
| | 2 | DX推進のはじめの一步！
すぐに使えるITツールで現場もオフィスも業務改善 | 10月11日 |
| | 3 | サイボウズ
kintoneの操作・構築体験講座 | 10月18日 |
| | 4 | LINE WORKS特別講座 | 11月22日 |
| ロボット編 | 1 | 産業用ロボット基礎講座 | 9月21日、10月26日 |
| | 2 | ロボット活用講座 | 9月28日、11月1日 |
| | 3 | ロボットビジョン講座 | 10月5日、11月9日 |
| | 4 | 協働ロボット体験講座 | 10月12日、11月16日 |
| | 5 | ロボットシミュレータ活用講座 | 10月19日、11月21日 |
- 23
- FAIS Annual Report 2023
- 産学連携の推進
- 24

提携セミナーの実施

ロボット及びデジタル関連企業等と提携し、地域企業の生産性向上に繋がるセミナーを開催しました。公募により募集した11社と提携して、計7回の実機見学・操作体験型のセミナーを開催し、受講者は、地域企業を中心に43社90名でした。

講座名	提携企業	開催日	受講者数
省エネ機器セミナー (インバータ・サーボ)	三菱電機(株)	7月19日	16名
工場内見える化セミナー (IoT・センサー)	(株)ハピクロ、(株)ちよっとメーション (株)リンクアームズ (株)エム・システム技研	8月30日	11名
業務自動化・効率化セミナー (RPA・デジタルツール等)	(株)ハピクロ、(株)佐々木総研	9月6日	19名
	MRI バリューコンサルティング・アンド・ソリューションズ(株) オムロン(株)	9月7日	14名
加工工数削減・自動化セミナー (CAD/CAM)	シーメンス(株)、(株)ブレイン	9月27日	8名
空気圧シリンダー入門セミナー (理工系学生向け)	SMC(株)	10月25日	7名
PLC(シーケンサ)・ エンジニアリングツールセミナー	三菱電機(株)	11月15日	15名
合 計			90名

デジタル人材教育プログラム（everiPro/everiGo）の実施

DX推進において全域で必要不可欠となるデジタルリテラシーの領域を網羅しつつ、テクノロジー領域に特化した、ビジネスパーソン向けの教育プログラムeveriPro（代表校：北九州市立大学、連携校：九州工業大学、熊本大学、宮崎大学、広島市立大学）や、北九州市近郊でシステムエンジニアを目指すIT未経験の方向けのWEB系システム開発プログラマ育成プログラムeveriGo（事業主体：北九州市立大学）について、FAISはプログラム運営、連携先企業の紹介等をサポートしています。



令和5年度受講者数38名



令和5年度受講者数40名

東田オープンラボによる新ビジネス創出事業

北九州市域を実証・実装フィールドと位置付け、地域の方々に先端技術をいち早く体験できる、ワクワクできるまちづくりを進めると同時に、実用化された製品やサービスを基に新たなビジネスが立ち上がり、企業、大学研究機関が集積。ここで生み出された技術がきっかけとなり、魅力あるプロジェクトが次々と生み出される。「東田オープンラボ構想」では、こうしたことが循環する「イノベーションのエコシステム」の形成を目指している。

構想実現に向け、3年目となる本年度も未来・先端技術をテーマとした連続セミナーを計3回開催した。会場は、令和5年10月にオープンした学研都市のコミュニケーションスペース「HIBIKINO ODORIVA」と枝光地区の「枝光本町商店街アイアンシアター」で開催。現地会場参加とオンライン参加により、北海道から九州各県まで延べ約300名が参画した。

また、本年度はセミナーの「番外編」として「中高生向け～こんな未来 あったらいいな～体験型ワークショップ」を、北九州市との共催事業（東田・未来都市プロジェクト）として北九州市科学館スペースLABOで開催。空飛ぶクルマのVRによる飛行体験の後、グループで未来について考え、そのアイデアを画像生成AIを使ってビジュアル化する、というプログラムに児童・生徒30名に加え、10名の保護者が参加、学校教育では経験できない「本物を知る」貴重な機会を提供した。

機運の醸成（北九州未来創造セミナー）				
回	テーマ	開催日	会場	参加者
第1回	<宇宙×ロボット最前線> 月面を駆け巡る探査ロボットが生み出す世界！ 株式会社ダイモン 三宅 創太 氏 パンチ工業株式会社 氏家 菜美子 氏 北九州市立大学 山崎 進 氏	1月26日	北九州学術研究都市 HIBIKINO ODORIVA	70名
第2回	<宇宙×次世代通信最前線> 空に海に宇宙に広がる次世代通信が生み出す世界！ 九州工業大学大学院 池永 全志 氏 国立研究開発法人情報通信研究機構 石津 健太郎氏 株式会社Space Compass 堀 茂弘 氏	2月16日	北九州学術研究都市 HIBIKINO ODORIVA	104名
第3回	<次世代モビリティ×量子コンピューティング最前線> 未来が見える！～未来社会の創造～ 有志団体Dream On 中村 翼 氏 東北大学/株式会社シグマアイ 羽場 廉一郎 氏	3月22日	枝光本町商店街 アイアンシアター	120名
合計				294名



生産性向上リーディングモデル創出事業

IoTによる中小企業の実産性向上をテーマに、北九州地域の中小企業（製造業含む）の業務の改善を促進し、売上増加、雇用拡大を通じた本誌経済の活性化につなげるための活動を行っています。特に、各社の生産性向上に対する意識の向上を図るため、先導できるプロジェクト（リーディングプロジェクト）を共同実証方式で実施しています。

	会社名（業種）	目 的
継続実施	(株)戸畑ターレット工作所(非鉄部品製造)	工程進捗を把握し、生産性向上・およびスタッフ管理コスト削減を目指す。
	日本鉄塔工業(株)(鋼構造物の製造)	工程進捗を把握し能力アップを狙う。
	吉川工業ファインテック(株)(プレス加工業)	工場稼働率を把握し計画の精度向上を図る。
	(株)山本工作所(ドラム缶製造)	プレス機故障を予兆段階で把握し停止防止を図る。
	ミマオエーシステム(株)(ソフトウェア開発)	データセンタUPS内蓄電池の法定検査の省力化を図る。
	溝上酒造(株)(醸造業)	定期的な温度管理を自動化し、省力化する。
	イワキ工業(株)(特殊ねじ製造)	現在手書きの作業日報を自動入力し効率化・原価把握まで実施したい。
	石川金属工業(株)(自動車部品製造)	蒸着メッキで使用する、治具台車の利用回数を自動カウントし、メンテ時期を把握したい。
	和田合金(株)(銅合金鋳物鑄造及び機械加工)	加工・工作機械(旋盤)の、実稼働率を把握することで、効率化によるコスト減と負荷の低減を図りたい。
	(株)勝山工作所(金属機械加工製造)	金属加工機の実稼働状況を知ることで、リードタイム計測・設備稼働率向上による生産性 UPを図りたい。
	(株)KOTANI(水回り手摺製造)	工程別の進捗状況を把握し、生産性向上・およびスタッフ管理コスト削減を目指す。
	石川金属工業(株)(自動車部品製造)	自動車部品のメッキ工程で使用する、吊手金具の利用回数を自動カウントし、交換・メンテ時期を把握したい。
	光洋金属工業(株)(電磁鋼板加工)	工程別の進捗状況を把握し、生産性向上・およびスタッフ管理コスト削減を目指す。
	吉川工業ファインテック(株)(No2)	QRコードを活用した生産情報一括管理の実現。
	(株)アイム製作所(制御盤・制御装置の製造)	社員の工程情報を電子化することで、個人スケジュール、部門工程、受注工程、工程管理情報の一元化を実現する。
新規追加	【農業DX】(株)桃源舎(施設ハウス運営、野菜卸売業)	最新のIT技術を応用することにより、先進的な都市型農業の実現(農業DX)を目指す。
	和田合金(株) *第二の課題改善/継続実施中	人の実加工時間を見える化し、コスト減と負荷の低減に役立てたい。
	吉川工業ファインテック *新規の取り組み/継続実施中	AI技術を応用した稼働計画シミュレーション

九州ヒューマンメディア創造センターの運営

地域のIT産業振興の拠点として、九州ヒューマンメディア創造センター（八幡東区東田一丁目5-7）を設置・運営しています。ここを中心として、近隣のデータセンター群やその運用の拠点施設、書類・メディアの保管・集配などのサービスを提供する情報倉庫、コンタクトセンターなど次世代を担う産業・業務施設の集積が進んでいます。

ビル内には、会議や研修などに利用できる会議スペースも備えており、入居企業をはじめ多くの方々に利用いただいています。

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援

中小企業の経営支援

◎総合相談・休日創業相談の実施

中小企業診断士等の専門家を窓口配置し、市内中小企業が抱える様々な相談に対応しています。また、平日に来訪が困難な創業予定者には、休日(土・日)相談を実施しています。

●令和5年度実績／総合相談件数1,279件

◎巡回相談の実施

直接企業に出向いて様々な相談に応じる巡回相談員を配置し、訪問企業に対し支援メニューや支援担当部署等の紹介をしています。

●令和5年度実績／341社

◎専門家の派遣

経営革新等に積極的に取り組もうとする中小企業に対し、専門家(登録約300名)を派遣して支援をしています。

●令和5年度実績／3社、10回

中小企業支援センター



チーフマネージャー
米澤 博 (よねざわ ひろし)
地元金融機関出身
金融機関での経験を活かし、中小企業の資金繰りや融資相談、創業相談など、経営全般に関わる悩みを積極的にサポートする。



マネージャー
粕井 隆志 (もみい たかし)
アルテックソリューションズ(株)代表取締役
一級建築士、中小企業診断士、経営者、エンジニア及び経営コンサルタントの経験を活かし、中小企業の持続的成長を支える仕組みづくりなど総合的な支援を行う。



マネージャー
則松 佳孝 (のりまつ よしたか)
特に福祉に関する業務を得意とし、セミナーや講演会等の講師も多数行っている。相談者に対し、専門用語を使わない理解しやすいアドバイスを心掛けている。



マネージャー
北嶋 知美 (きたしま ともみ)
(株)ヒロインコンサルティング代表取締役
中小企業診断士の資格を持ち、戦略策定・実行、経営改善、生産性向上、販路開拓等、中小企業の幅広い悩みに対応し課題解決をサポートする。



マネージャー
野島 英樹 (のじま ひでき)
野島中小企業診断士事務所代表
大手外食企業で現場や経営に携わり、中小企業診断士として独立。現場経験を活かした実行力での「想い」の達成に向けて伴走をしている。



巡回相談・マッチング担当
村田 信敏 (むらた のぶとし)
中小企業診断士
市内の製造業を対象に訪問し、各種相談に応じる。支援施策や担当部署を紹介。あわせて、製造業の受発注のマッチングを担当。

◎創業支援の実施

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行っています。

●令和5年度実績／創業33社

◎マッチングコーディネートの実施

専門的知識や幅広い人脈を持つマッチング担当者が市内のものづくり中小企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援します。

●令和5年度実績／マッチング件数24件、成約件数2件

◎知的財産活用の実施

北九州地域の中小企業の新技術・新商品開発や新たな特許取得等を促進するため、知的財産権に関する相談・指導や特許活用等の支援を行っています。

●令和5年度実績／発明相談69件、特許相談602件



窓口支援担当者
武内 洋介 (たけうち ようすけ)
住宅設備メーカー出身。
研究、開発、製造の経験を活かし特許・意匠・商標の出願サポートに留まらず、知的財産を通して企業の業績向上に貢献できるような支援を行う。

情報発信

◎北九州市中小企業支援ガイドブック

北九州市内の中小企業が利用可能な行政等の支援施策をまとめた冊子です。中小企業支援センターで無料配布しています。

●発行部数6,000部



◎メールマガジンによる情報発信

「中小企業支援センタートピックス」を配信中。
補助金、セミナー情報等中小企業に関するトピックスを掲載しています。

●配信先 約3,700件(令和6年3月現在)
●毎週木曜日配信

◎ネットワーク北九州の発行

中小企業支援施策の紹介等をまとめた市内中小企業向け情報紙「ネットワーク 北九州」を毎月1日に発行しています。

●中小企業支援センターHPからダウンロード可能です
<https://www.ktc.ksrp.or.jp/nwk/>



セミナーの開催

◎実践起業塾2023

起業予定者、起業後間もない方を対象に、起業の心構え、事業計画書作成の基礎知識や財務、会計などについて学ぶ講座を開催しました。

●令和5年度実績 受講者16名



◎インボイス・電子帳簿保存法実務セミナー

市内中小企業者、個人事業者を対象にインボイス制度(適格請求書等保存方式)と電子帳簿保存法について実務にポイントを絞ってセミナーを開催しました。

●開催回数:6回 受講者数:101名



◎自社商品・サービス魅力再発見北九州ブランディングセミナー

自社商品・サービスの魅力発掘の思考や効果的に発信する方法を座学、ワークを用いて学び、中小企業者・個人事業者の売上アップ、経営改善に繋がる連続セミナー(全3回)を開催しました。
●受講者数:9名



訪問による中小企業支援

◎経営力強化サポート事業

●経営計画・資金繰り計画の策定を支援する専門家を派遣しました(10社 42回)

◎訪問相談員による訪問相談を実施しました。(R5年 883件)

財団運営

評議員名簿

(令和6年6月24日現在)

五十音順	
氏名	役職名
栗野 秀慈	九州歯科大学長
石橋 雅貴	福岡県商工部新産業振興課長
上田 陽一	産業医科大学長
片山 憲一	北九州市副市長
津田 純嗣	北九州商工会議所会頭
鶴見 智	北九州工業高等専門学校長
田原 竜夫	産業技術総合研究所 九州センター 所長代理
宮崎 幸雄	九州電力(株)執行役員北九州支店長
山本 和男	(公社)九州機械工業振興会会長

役員名簿

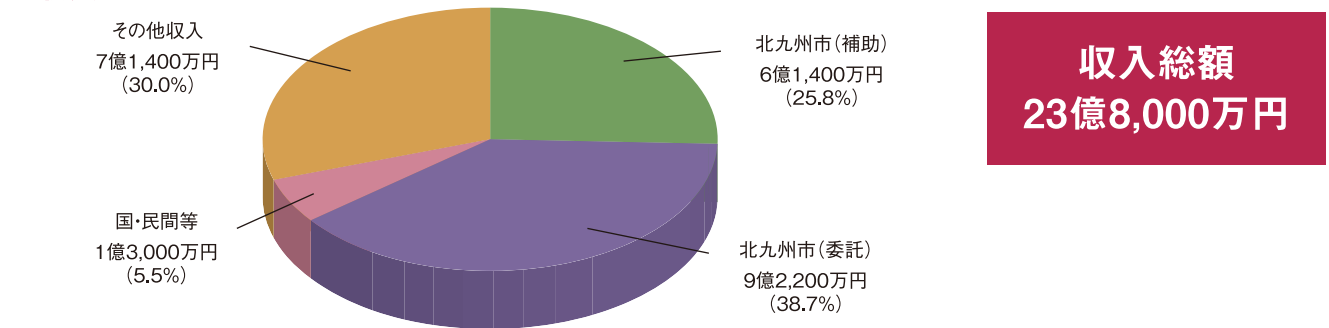
(令和6年6月24日現在)

五十音順		
役員の種類	氏名	役職名
理事長	松永 守央	(公財)北九州産業学術推進機構理事長
副理事長	白水 浩一	トヨタ自動車株式会社 デジタルソフト開発センター 電子プラットフォーム開発 チーフプロジェクトリーダー
専務理事	北里 勝利	(公財)北九州産業学術推進機構専務理事
理事	井上 文人	早稲田大学常任理事
//	上江洲 一也	北九州市立大学副学長
//	柴田 泰平	北九州市産業経済局長
//	自見 榮祐	(一社)北九州中小企業団体連合会顧問
//	中藤 良久	九州工業大学副学長
//	矢野 宏之	北九州情報サービス産業振興協会会長
監事	岩男 英徳	(株)西日本シティ銀行執行役員北九州総本部長
//	吉村 知泰	北九州市会計室長

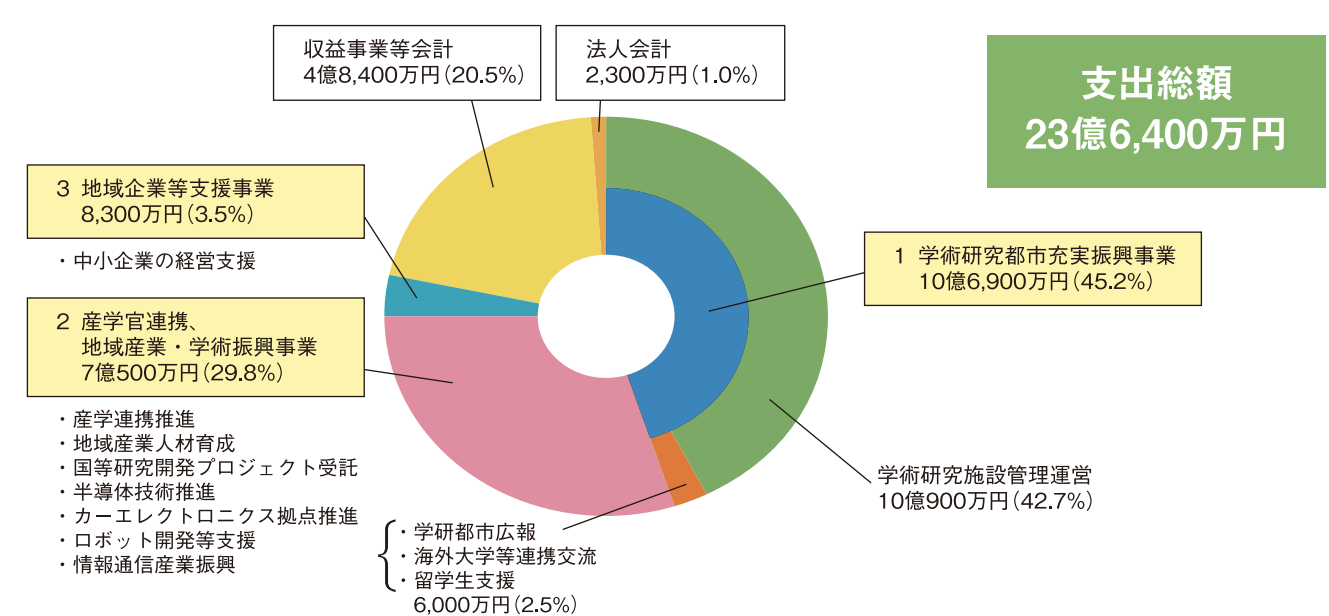
令和5年度 決算資料

収入および支出内訳

<収入>



<支出>



貸借対照表

令和6年3月31日現在

(公財)北九州産業学術推進機構 (単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	558,586,315	575,707,611	△ 17,121,296
未収金	287,075,311	333,237,310	△ 46,161,999
流動資産合計	845,661,626	908,944,921	△ 63,283,295
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	285,221,176	285,221,176	0
普通預金	278,824	278,824	0
基本財産合計	285,500,000	285,500,000	0
(2) 特定資産			
建物	576,617,036	595,284,494	△ 18,667,458
建物付属設備	14,100,735	22,961,044	△ 8,860,309
構築物	1	1	0
機械設備	13,652,732	16,063,594	△ 2,410,862
什器備品	14,018,346	15,024,629	△ 1,006,283
無形固定資産	0	108,214	△ 108,214
学研都市充実強化積立資産	9,636,411	9,636,411	0
特定プロジェクト支援積立資産	16,055,760	16,055,760	0
旭興産研究支援事業積立資産	473,448	12,853	460,595
上野精機人材育成事業積立資産	8,998,000	5,000,000	3,998,000
修繕積立資産	191,320,000	184,320,000	7,000,000
普通預金	170,320,000	163,320,000	7,000,000
投資有価証券	21,000,000	21,000,000	0
ビル附属設備積立資産	137,209,190	126,209,190	11,000,000
預り敷金積立資産	79,714,560	0	79,714,560
特定資産合計	1,061,796,219	990,676,190	71,120,029
(3) その他固定資産			
建物付属設備	25,979,777	25,606,351	373,426
構築物	385,299	406,804	△ 21,505
車両運搬具	1	1	0
機械設備	3,391,605	4,308,465	△ 916,860
什器備品	17,720,767	10,633,166	7,087,601
無形固定資産	4,790,648	4,758,412	32,236
電話加入権	73,000	73,000	0
保証金	20,000	20,000	0
リサイクル預託金	10,480	10,480	0
長期未収金	69,002	69,002	0
その他固定資産合計	52,440,579	45,885,681	6,554,898
固定資産合計	1,399,736,798	1,322,061,871	77,674,927
資産合計	2,245,398,424	2,231,006,792	14,391,632
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	242,637,933	246,775,180	△ 4,137,247
預り金	13,165,893	5,460,586	7,705,307
預り金(敷金)	0	83,060,820	△ 83,060,820
流動負債合計	255,803,826	335,296,586	△ 79,492,760
2. 固定負債			
受入保証金(預り敷金)	79,714,560	0	79,714,560
固定負債合計	79,714,560	0	79,714,560
負債合計	335,518,386	335,296,586	221,800
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
北九州市補助金	330,429,267	342,963,272	△ 12,534,005
国庫補助金	268,197,020	277,603,091	△ 9,406,071
寄付金	209,471,448	205,012,853	4,458,595
指定正味財産合計	808,097,735	825,579,216	△ 17,481,481
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(603,415,133)	(617,622,770)	(△14,207,637)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	1,101,782,303	1,070,130,990	31,651,313
(うち特定資産への充当額)	(85,500,000)	(85,500,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(458,381,086)	(373,053,420)	(85,327,666)
正味財産合計	1,909,880,038	1,895,710,206	14,169,832
負債及び正味財産合計	2,245,398,424	2,231,006,792	14,391,632

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
(公財)北九州産業学術推進機構 (単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,832,300	1,883,449	△ 51,149
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	361,216	86,594	274,622
③事業収益			
北九州市受託事業収益	921,869,999	840,089,133	81,780,866
その他受託事業収益	94,080,763	88,761,019	5,319,744
T L Oライセンス事業収益	780,335	972,034	△ 191,699
その他事業収益	169,122,558	214,454,868	△ 45,332,310
収益事業等会計収益	20,822,606	20,612,967	209,639
ビル事業収益	141,330,151	147,365,590	△ 6,035,439
④受取補助金等			
受取北九州市補助金	607,253,527	571,663,712	35,589,815
受取国庫補助金	29,377,188	49,759,727	△ 20,382,539
受取補助金等振替額	29,115,125	31,123,971	△ 2,008,846
⑤受取寄付金			
受取寄付金	600,000	600,000	0
受取寄付金振替額	17,471,405	9,999,225	7,472,180
⑥雑収益			
雑収益	265,806	1,261,934	△ 996,128
経常収益計	2,034,282,979	1,978,634,223	55,648,756
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	13,415,220	13,341,956	73,264
給与	227,465,251	206,791,830	20,673,421
福利厚生費	52,300,882	47,436,501	4,864,381
会議費	3,279,742	2,364,830	914,912
渉外費	686,339	837,349	△ 151,010
旅費交通費	14,815,310	8,890,041	5,925,269
通信運搬費	8,082,120	7,202,330	879,790
減価償却費	45,884,818	46,954,185	△ 1,069,367
消耗品費	27,923,213	17,040,446	10,882,767
修繕費	94,303,726	82,427,389	11,876,337
印刷製本費	3,794,310	1,518,660	2,275,650
新聞図書費	5,154,122	4,841,019	313,103
燃料費	383,298	331,124	52,174
光熱水費	195,858,955	242,350,278	△ 46,491,323
賃借料	76,725,383	75,538,527	1,186,856
保険料	2,017,390	1,933,630	83,760
諸謝金	68,513,380	69,139,539	△ 626,159
租税公課	33,094,570	34,133,886	△ 1,039,316
委託費	710,801,710	707,525,960	3,275,750
支払負担金	81,089,549	77,902,980	3,186,569
支払助成金	282,067,254	287,564,770	△ 5,497,516
ライセンス料	237,668	210,630	27,038
支払手数料	18,180,781	13,696,106	4,484,675
奨学金	12,550,000	12,600,000	△ 50,000
雑費	359,898	13,860	346,038

科目	当年度	前年度	増減
②管理費			
役員報酬	4,471,740	4,447,319	24,421
給与	5,759,918	4,131,224	1,628,694
福利厚生費	1,560,715	1,299,170	261,545
会議費	54,392	45,440	8,952
渉外費	76,112	95,103	△ 18,991
旅費交通費	1,529,710	1,255,100	274,610
通信運搬費	64,349	143,111	△ 78,762
減価償却費	266,469	1,086,806	△ 820,337
消耗品費	828,519	1,291,042	△ 462,523
修繕費	127,490	118,800	8,690
印刷製本費	161,700	176,000	△ 14,300
新聞図書費	90,197	96,178	△ 5,981
燃料費	175,628	200,256	△ 24,628
光熱水費	60,937	75,847	△ 14,910
賃借料	1,546,008	1,783,696	△ 237,688
保険料	133,860	129,790	4,070
諸謝金	840,000	924,900	△ 84,900
租税公課	21,010	45,494	△ 24,484
委託費	1,737,198	5,283,944	△ 3,546,746
支払負担金	793,575	730,375	63,200
支払手数料	2,134,330	3,143,098	△ 1,008,768
雑費	3,400	2,700	700
経常費用計	2,001,422,146	1,989,093,219	12,328,927
評価損益等調整前当期経常増減額	32,860,833	△ 10,458,996	43,319,829
基本財産評価損益等			
基本財産償還損	0	5,278,575	△ 5,278,575
評価損益等計	0	△ 5,278,575	5,278,575
当期経常増減額	32,860,833	△ 15,737,571	48,598,404
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①除却損失			
什器備品除却損	20	44	△ 24
無形固定資産除却損	0	1	△ 1
②過年度損益修正損			
過年度損益修正損	0	6,050,197	△ 6,050,197
経常外費用計	20	6,050,242	△ 6,050,222
当期経常外増減額	△ 20	△ 6,050,242	6,050,222
税引前当期一般正味財産増減額	32,860,813	△ 21,787,813	54,648,626
法人税・住民税及び事業税	1,209,500	1,147,300	62,200
当期一般正味財産増減額	31,651,313	△ 22,935,113	54,586,426
一般正味財産期首残高	1,070,130,990	1,093,066,103	△ 22,935,113
一般正味財産期末残高	1,101,782,303	1,070,130,990	31,651,313
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等			
受取北九州市補助金	7,175,049	3,407,272	3,767,777
受取寄付金			
受取寄付金	21,930,000	15,000,000	6,930,000
基本財産受取利息	1,832,300	1,883,449	△ 51,149
一般正味財産への振替額	△ 48,418,830	△ 43,006,645	△ 5,412,185
当期指定正味財産増減額	△ 17,481,481	△ 22,715,924	5,234,443
指定正味財産期首残高	825,579,216	848,295,140	△ 22,715,924
指定正味財産期末残高	808,097,735	825,579,216	△ 17,481,481
III 正味財産期末残高	1,909,880,038	1,895,710,206	14,169,832